長野県埋蔵文化財センター年報 28

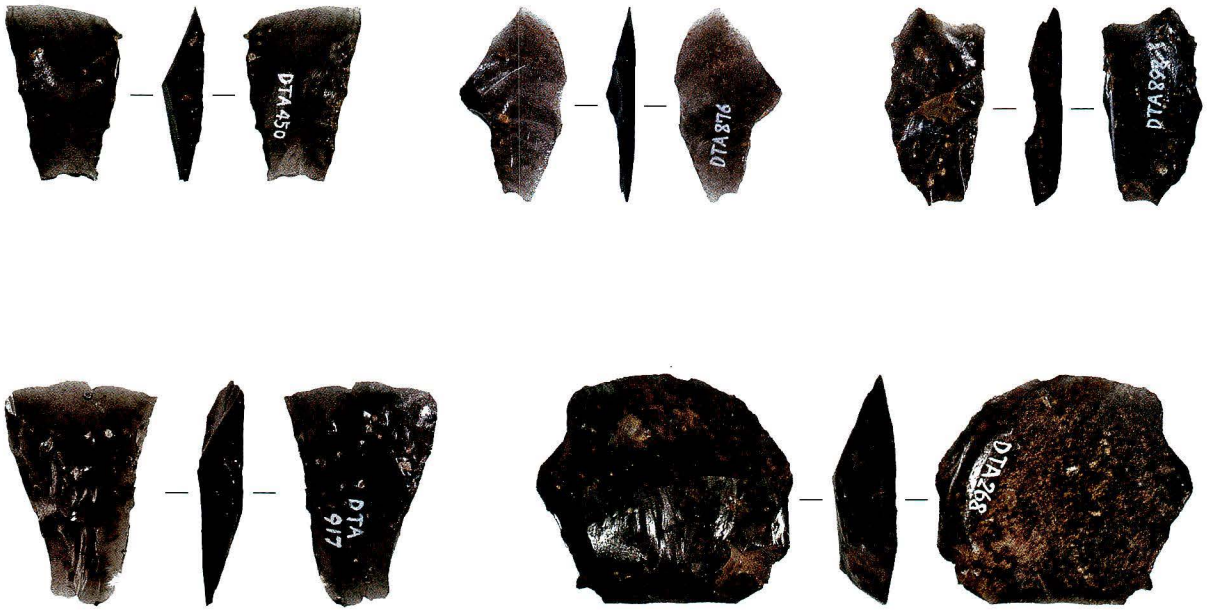
2011

財団法人長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター

長野県埋蔵文化財センター年報28

２０１１

財団法人長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター



佐久市高尾Ａ遺跡出土の旧石器（Ｓ＝１：１）

佐久市小山の神Ｂ遺跡出土の縄文土器

中野市南大原遺跡弥生土器出土状況

佐久市西一里塚遺跡群出土の鉄釧

飯田市鬼釜古墳全景

長野市浅川扇状地遺跡群全景

目　次

口絵写真

・佐久市　　高尾Ａ遺跡出土の旧石器
・佐久市　　小山の神Ｂ遺跡出土の縄文土器
・中野市　　南大原遺跡弥生土器出土状況
・佐久市　　西一里塚遺跡群出土の鉄釧
・飯田市　　鬼釜古墳全景
・長野市　　浅川扇状地遺跡群全景

目　次

Ⅰ　2011 年度の埋蔵文化財センター …… 1

Ⅱ　発掘作業の概要…… 2
（１）南大原遺跡 …… 3
（２）琵琶島遺跡 …… 4
（３）浅川扇状地遺跡群 …… 5
（４）大道下、清水東遺跡 …… 8
（５）鬼釜遺跡・鬼釜古墳 …… 9
（６）小山の神Ｂ遺跡……12
（７）北裏遺跡群 ……14
（８）高尾Ａ遺跡 ……15
（９）兜山遺跡 ……16
（10）大沢屋敷遺跡 ……17
（11）前の久保遺跡 ……18
（12）三枚平Ｂ遺跡……19
（13）滝ノ沢遺跡 ……19
（14）滝遺跡……20
（15）和田遺跡 和田１号墳 ……21
（16）小山寺窪遺跡 ……22

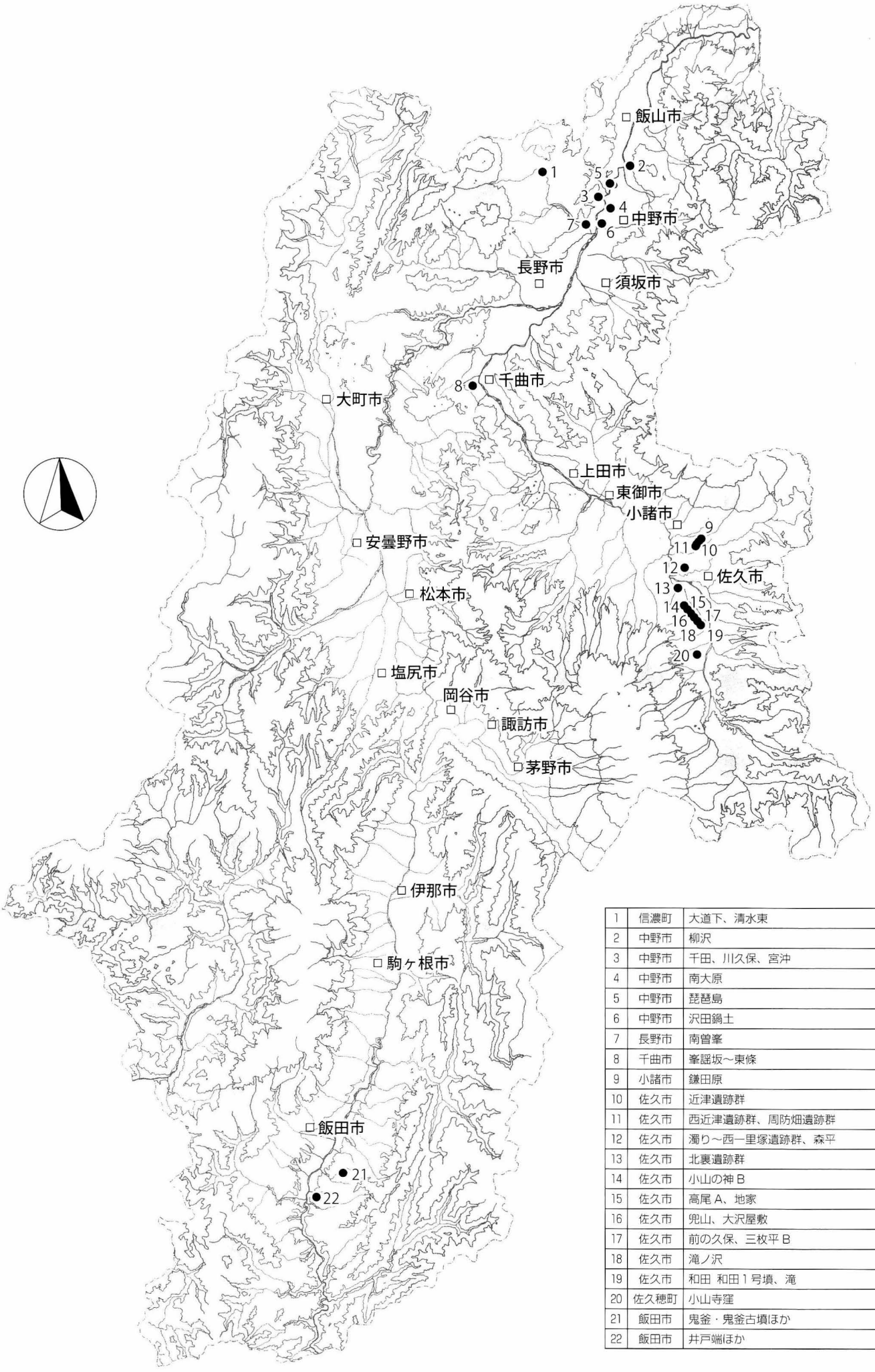
Ⅲ　整理作業の概要……23
（１）柳沢遺跡ほか ……24
（２）南曽峯遺跡ほか ……27
（３）西近津遺跡群 ……28
（４）濁り遺跡ほか ……29

Ⅳ　普及公開活動の概要
（１）展示会・講演会 ……30
（２）現地説明会 ……31
（３）夏休み考古学チャレンジ教室 ……31

Ⅴ　研修等の概要
（１）講師招聘などによる指導……32
（２）全埋協等への参加 ……33
（３）研修および資料調査 ……33
（４）学会・研修会などでの発表……34
（５）市町村・関係機関などへの協力 ……34
（６）学校関係への協力・指導……35
（７）資料の貸し出し ……35

Ⅵ　組織・事業の概要……38
（１）組　織
（２）職　員
（３）事　業

奥付



1	信濃町	大道下、清水東
2	中野市	柳沢
3	中野市	千田、川久保、宮沖
4	中野市	南大原
5	中野市	琵琶島
6	中野市	沢田鍋土
7	長野市	南曽峯
8	千曲市	峯謡坂～東條
9	小諸市	鎌田原
10	佐久市	近津遺跡群
11	佐久市	西近津遺跡群、周防畑遺跡群
12	佐久市	濁り～西一里塚遺跡群、森平
13	佐久市	北裏遺跡群
14	佐久市	小山の神 B
15	佐久市	高尾 A、地家
16	佐久市	兜山、大沢屋敷
17	佐久市	前の久保、三枚平 B
18	佐久市	滝ノ沢
19	佐久市	和田 和田 1 号墳、滝
20	佐久穂町	小山寺窪
21	飯田市	鬼釜・鬼釜古墳ほか
22	飯田市	井戸端ほか

図 1　平成 23 年度調査・整理対象遺跡

2011 年度の事業概要

本年度は９件の開発事業にかかる発掘・整理作業を受託し、速報展等の自主事業を行った。

発掘作業のうち、調査の対象となった遺跡は19 ケ所、総面積 74,401㎡で、継続事業の中部横断自動車道関連事業、三遠南信自動車道関連事業のほかに本年度から新たに野尻バイパス関連事業および県道関連事業により５遺跡の発掘作業に着手した。また、24 遺跡の整理作業を進め報告書５冊を刊行した。事業費総額は 661,680 千円（対前年度比 118％）である。

以下、発掘作業・整理作業の成果を時代ごとに概観してみよう。

■旧石器時代　始良丹沢火山灰降灰以前、25,000 年をさかのぼる石器群が高尾Ａ遺跡（佐久市）から発見された。台形石器を主体とする黒曜石製の石器群である。佐久市教育委員会がかつて調査した同時期の遺跡として立科Ｆ遺跡が南西４ｋｍのところに所在するが、この遺跡の黒曜石は和田峠や星ヶ塔産であるのに対し、肉眼観察ではあるが、高尾Ａ遺跡の黒曜石は八ヶ岳産であるようで、当時の黒曜石流通を考える上で貴重な発見となった。

■縄文時代　小山の神Ｂ遺跡（佐久市）は、やせ尾根に立地する縄文時代前期の集落跡である。14 軒検出された竪穴住居跡のうち９軒は約 6,500 年前の前期初頭、５軒は約 5,500 年前の前期後半（諸磯ｃ式期）と集落が営まれたのは２時期に分かれる。周辺では後沢遺跡、榛名平遺跡で前期竪穴住居跡が確認されているが、前期中葉期の遺跡で、本遺跡とは時期がずれる。蓼科東麓の縄文前期集落の形成を理解する上で貴重な資料を調査することができた。

■弥生時代　南大原遺跡（中野市）は旧千曲川河道を挟んで弥生時代中期の大集落と推定される栗林遺跡と対峙する。今回の調査は県道改良のため調査面積が狭かったが、中期後半期の竪穴住居跡、掘立柱建物跡、大量の遺物が出土した大溝を調査した。

和田遺跡（佐久市）では後期末～古墳時代初頭期の竪穴住居跡を４軒検出した。標高約 750 ｍ、痩せ尾根中腹に立地する集落である。

■古墳時代　浅川扇状地遺跡群（長野市）では前期の竪穴住居跡を７軒調査した。竪穴住居跡はそれぞれ一辺７ｍほどあり、比較的大きい。遺物量も多く、東海系や北陸系の土器も検出された。

鬼釜古墳（飯田市）は、明治年間に馬具や太刀、須恵器提瓶などが出土していたもののその後の土取りなどにより、石室の石が寄せられるなど正確な所在が不明であったが、今回の調査で石室部の残骸、周溝が確認された。特筆されることは周溝から馬の埋葬土坑が検出されたことである。土坑内からは馬具（鞍金具２点、雲珠１点）が出土したため、埋葬土坑と判断した。馬の埋葬土坑は飯田市域でも天竜川以西に限られており、天竜川以東では初めて確認された。また埋葬土坑の多くは５世紀代の古墳に伴うものだが、鬼釜古墳は出土遺物から６世紀代と考えられ、分布・時期ともに従来の飯田市域の馬埋葬事例に新たな資料を提供することとなった。

■古代　浅川扇状地遺跡群で平安時代の竪穴住居跡 55 軒を発掘した。円面硯や帯金具など一般的な集落ではあまりみられない遺物が発見された。特に円面硯は硯の側面に筆立て用の筒を付した「筆立て付円面硯」で、類例は県内にはなく全国でも 12 例ほどの希少な資料である。

硯について、周防畑遺跡群（佐久市）においても整理作業中に「獣脚風字硯」と呼称すべき須恵器製の硯が発見された。風字硯に獣脚がついたもので類例が今のところなく、佐久地方で独特の硯を製造したとも考えられ、興味深い資料である。

■中近世　浅川扇状地遺跡群では中世の堀跡、井戸跡、墓跡を検出した。堀跡の規模は検出面で幅約３ｍ、深さ 1.5 ｍを測り、土橋をもち、調査区内でＬ字に曲がり居館跡の堀の一部と考えられる。当地は高野氏館跡（桐原要害）の推定地にあたる。今年度の調査区では堀で囲まれた区域での遺構は確認できなかったが、次年度以降の調査区に期待が寄せられる。

和田１号墳（佐久市）は古墳として登録されていたが、発掘の結果、埋葬施設はなく、近世末以降の塚であることが判明した。

Ⅱ　発掘調査の概要

遺跡名	所在地	事業名	面積㎡	調査期間	時代・内容	主な遺物
南大原（みなみおおはら）	中野市	県道三水中野線	1,943	4月20日～7月15日	弥生時代：竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑。	縄文時代：土器。弥生時代：土器、石器、磨製石鏃、打製刃器、磨製石斧。
琵琶島（びわじま）		県道豊田中野線	5,350	7月20日～12月12日	中世以降：掘立柱建物跡、土坑。	縄文～古墳時代：土器。縄文～弥生時代：叩き石。近世：陶磁器。
浅川扇状地（あさかわせんじょうち）	長野市	県道高田若槻線	3,600	4月12日～11月30日	古墳～奈良・平安時代：竪穴住居跡。古代～中世：溝跡、井戸跡。中世：堀跡、墓。古墳時代～中世：土坑。	弥生時代：土器、石器。古墳時代：土器、管玉。古代：土器、灰釉陶器、円面硯、砥石、獣骨、帯金具。中世：陶磁器、石鉢、銭貨、人骨、獣骨。
大道下（おおみちした）	信濃町	野尻バイパス	510	8月1日～9月30日	時期不明：土坑。	縄文時代：土器ほか。
清水東（しみずひがし）			630	8月1日～9月30日	なし	なし
鬼釜・鬼釜古墳（おにがま・おにがまこふん）	飯田市	飯喬道路	16,300	4月23日～12月19日	縄文時代：竪穴住居跡、土坑墓、土坑。古墳時代：墳墓、馬の埋葬土坑。平安時代：竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑。中世：竪穴建物跡、溝跡。中世以降：掘立柱建物跡、土坑。	縄文時代：土器、石器、土偶、有孔磨製石斧。古墳時代：土器、勾玉、管玉、臼玉、耳環、馬具、鉄鏃。平安時代：土器。中世：陶磁器。
風張（かざはり）			620 14,680 （確認）	9月27日～12月19日	古代：竪穴住居跡。中近世：堀立柱建物跡。	古代、中近世：土器、陶磁器。
北裏（きたうら）	佐久市	中部横断自動車道	1,900	7月7日～8月26日	時期不明：溝跡。	縄文時代～中世：土器、石器、陶磁器。
小山の神B（こやまかみ）			2,900	8月2日～12月21日	縄文時代：竪穴住居跡、フラスコ状土坑、焼土跡。弥生時代～近世：溝跡。縄文時代～近世：土坑。	縄文時代：土器、石器。弥生時代：土器、石器、石鍬。古代：土器。中近世：陶磁器、銭貨、キセル、鉄滓。
高尾A（たかお）			1,500 3,050 （確認）	4月5日～8月29日	旧石器時代：ブロック。縄文時代：竪穴状遺構。時期不明：小土坑。	旧石器時代：台形石器、貝殻状刃器、掻器状刃器、削器。縄文時代～中世：土器、石器、銭貨。
地家（ちけ）			28	11月7日～11月22日	なし	なし
兜山（かぶとやま）			340	10月4日～12月21日	古墳時代：墳墓。	縄文時代：土器、打製石斧。古墳時代～古代：須恵器。
大沢屋敷（おおさわやしき）			1,880	9月12日～11月28日	縄文時代：円形土坑列、土坑。	縄文時代：土器、石器。中世：銭貨。
前の久保（まえくぼ）			5,910	4月5日～7月27日	弥生時代：竪穴住居跡、溝跡。時期不明：土坑、焼土跡。	縄文時代～中世：土器、石器、陶磁器。
三枚平B（さんまいびら）			900	7月12日～8月26日	なし	なし
滝ノ沢（たきさわ）			1,500 （確認）	8月29日～11月28日	なし	縄文時代、古代、中世：土器、石器、陶磁器。
和田 和田一号墳（わだ わだいちごうふん）			10,000	4月5日～9月30日	弥生時代：竪穴住居跡。時期不明：竪穴状遺構、土坑。近世以降：塚。	縄文～古墳時代：土器。近世末～：陶磁器。縄文～弥生時代：石器。中近世：銭貨。
滝（たき）			710	5月19日～8月17日	古墳時代～古代：竪穴住居跡、焼土跡。縄文時代～古代：土坑。	縄文時代：土器、石器。古墳時代：土器、砥石。古代：須恵器、土師器。
小山寺窪（こやまてらくぼ）	佐久穂町		150	4月5日～4月28日	古代～中世：土坑、溝跡。	縄文～弥生時代：土器。

(1) 南大原遺跡（みなみおおはら）

（県道三水中野線関連）

所在地及び交通案内：中野市上今井字南大原。上信越自動車道中野 IC から北西約 0.3km。

遺跡の立地環境：旧千曲川左岸に発達した沖積地上に立地し、調査地点は現千曲川にかかる上今井橋のたもと付近（大俣バス停隣接地）である。なお、千曲川は明治 3 年に現在の位置に開削された。遺跡形成時の立地は著しい曲流部のある舌状地形上で、遺跡が比較的広範に及んでいたと考えられる。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
23.4.20 ～ 7.15	1,943㎡	町田勝則　前田一也

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	4	弥生中期後半（栗林式期）
掘立柱建物跡	8	弥生中期後半（栗林式期）
溝跡	2	弥生中期後半（栗林式期）
土坑	62	弥生中期後半主体

旧千曲川左岸に営まれた弥生時代中期の集落遺跡

発掘調査は、過去 3 回（昭和 25 年・32 年・54 年）実施されている。弥生時代の遺構は、32 年に「V 字状」の溝跡を、54 年に竪穴住居跡 3 軒が確認されている。今回の調査成果を加えると、大溝 1 本と竪穴住居跡 7 軒の集落遺跡となる。

これら調査対象地は、遺跡範囲の南東端で極めて狭小な範囲に限られていることから、弥生時代の集落の規模が、より大きなものであった可能性がある。遺跡の旧千曲川対岸には、県史跡として著名な栗林遺跡があるだけに、今後の考古学的追究は必須である。

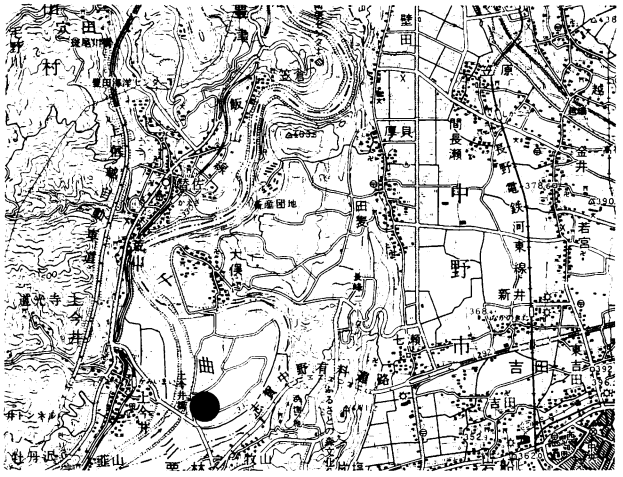


図２　南大原遺跡の位置（1：50,000 中野）

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器	縄文前期前葉、弥生中期後半
石器	弥生中期後半（打製石鏃、磨製石鏃、打製刃器、磨石、凹石、敲石、台石、磨製石斧）
種子	弥生（モモ ?1 点）
骨片・炭化物	弥生を主体

遺構・遺物の特色

遺跡は栗林式土器（約 2,000 年前）の時期で、弥生時代中期後半である。竪穴住居跡には円形と隅丸方形の 2 つのタイプがあるが、調査時点で、その違いの要因をつかめていない。今後、住居跡内から出土した遺物の詳細な検討が必要である。

大溝は、昭和 54 年調査の 3 軒と今回の 4 軒の住居跡を隔てるように存在する。貯水や流水の痕跡は埋没土から認められない。環壕のような施設であるのか、その性格については不明である。3 区及び 5 区の調査をまって評価したい。

出土遺物は弥生土器が主体で、石器がごく微量、金属製品の出土はない。

今後の発掘調査予定

今回の開発事業で記録保存の対象となった発掘調査地は約 3,300㎡であり、これを便宜的に 5 つの地区にわけた。

平成 23 年度は 1 区と 2 区、4 区の約 2,000㎡を調査し、次年度以降に 3 区及び 5 区の約 1,300㎡を実施する予定である。

(2) 琵琶島遺跡

（県道豊田中野線関連）

所在地及び交通案内：中野市豊津字大日影。上信越自動車道中野 IC から北西約 2.0km。

遺跡の立地環境：千曲川左岸に発達した河岸段丘上に立地する。調査地点は千曲川に強く張り出した段丘上にある。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
23.7.20 ～ 12.12	5,350㎡	町田勝則　前田一也

検出遺構

遺構の種類	数	時期
掘立柱建物跡	15	中世以降の可能性高い
土坑	262	同上
その他不明遺構	7	時期不明

千曲川下流の左岸域に営まれた中世以降を中心とする居住跡

平成 22 年度中野市教育委員会の範囲確認調査により、これまで周知された琵琶島遺跡（滝脇地籍）の遺跡範囲を北側の大日影地籍まで拡大することになった。

この調査で、弥生時代の住居跡及び古代から中世と考えられる時期の柱穴が発見された。出土遺物はコンテナ 5 箱分が得られている。

今回の調査では弥生時代集落跡の発見に期待が寄せられたが、調査地の旧表土の大部分が近世以降と推測される水田耕地化に伴い削平されていた。

このため、柱穴状の遺構を地表下 40cm ほどで多数検出したが、出土遺物は少なかった。柱穴状の遺構は規模や配列等から掘立柱建物跡を想定し、15 棟を調査している。建物跡は 2 間 × 2 間の総柱式、1 間 × 2 間の側柱式等であるが、伴出遺物がなく時期の特定には至っていない。

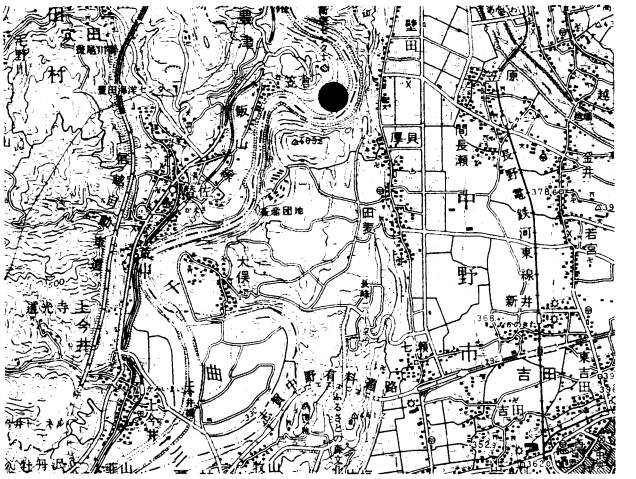


図 3　琵琶島遺跡の位置（1：50,000 中野）

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器	縄文中期、弥生中期後半、古墳前期、近世
石器	縄文～弥生（敲石、砥石など）

水田客土下から、弥生時代中期から近世の遺物が出土しているため、建物跡はこの間に帰属する可能性が高いが、規模や柱間からみて中世以降に所属する建物が主であると考えられる。

所属時期については、次年度以降の調査の中で、さらに追究していく必要がある。

遺構・遺物の特色

遺物は表土及び水田客土下から出土している。遺構に伴出する例や遺構の所属時期を判定できる資料には欠けている。

遺物の時期では、縄文時代中期前半の深鉢形土器の小破片、弥生時代中期後半の壷形や甕形土器破片、古墳時代前期前半の高坏形土器破片、近世末期の陶磁器茶碗の小破片がある。

今後の発掘調査予定

今回、県道豊田中野線の道路建設予定地で記録保存の対象となった発掘調査地は約 20,000㎡ある。これを大まかに 3 つの地区にわけ、平成 23 年度は西区の約 5,400㎡を調査した。次年度以降は、千曲川沿いの東区及び山側の南区との約 16,000㎡を調査する予定である。

(3) 浅川扇状地遺跡群

（あさかわせんじょうちいせきぐん）

（県道高田若槻線関連）

所在地及び交通案内：長野市桐原ほか。長野電鉄桐原駅から東約200m。

遺跡の立地環境：飯綱山を水源とする浅川によって形成された扇状地上に立地する。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
23.4.12 ～ 11.30	3,600㎡	西香子　中野亮一　鈴木時夫 大澤泰智

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	64	古墳、古代
堀跡	1	中世
墓	3	中世
溝跡	4	古代～中世
井戸跡	2	古代～中世
土坑	163	古墳～中世

調査地は善光寺平（長野盆地）北部に位置し、浅川扇状地遺跡群として周知されている。遺跡群内ではこれまでに、弥生時代後期初頭の「吉田式土器」の標式遺跡である吉田高校グラウンド遺跡や、縄文時代中期・弥生時代中期～古墳時代後期の集落跡である檀田（まゆみだ）遺跡、奈良から平安時代の集落跡である桐原宮西遺跡などが長野市教育委員会によって発掘調査がなされてきた。

また、平成22年度には今年度の調査地西側にあたる桐原宮北遺跡でも長野市教育委員会により発掘調査が実施された。この調査では、弥生時代後期から古墳時代前期の墓跡、古墳時代後期から平安時代の住居跡などが確認され、縄文時代から中世の遺物が採集されている。

今年度は、事業地内の長野電鉄線南側にあたる

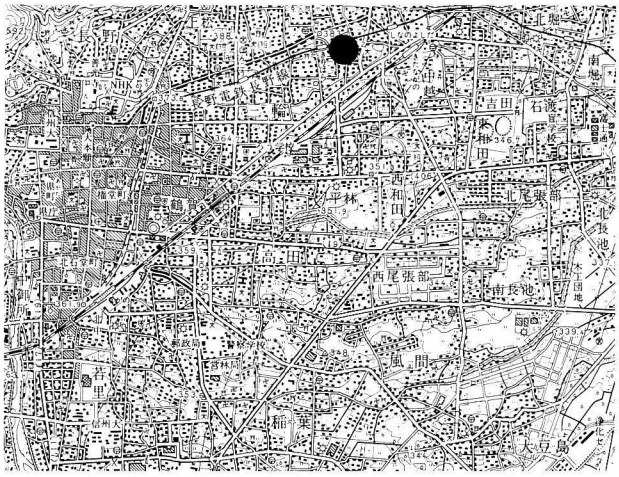


図４　浅川扇状地遺跡群の位置（1：50,000 長野）

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	弥生中・後期、古墳前期、古代（土師器、須恵器、灰釉陶器）、中世（青磁、かわらけ）
土製品	平安（管玉）
石器・石製品	弥生（打製石斧、剥片）、古墳（管玉）、平安（砥石）、中世（石鉢）
金属製品	平安（帯金具、鉄族、鎌ほか）、中世（銭貨）
骨	古代（獣骨）、中世（人骨、獣骨）

桐原地区で調査を行った。予想された古墳時代から平安時代の集落跡に加えて、中世の墓跡や井戸跡・堀跡等を確認した。以下、時代ごとに主な遺構の概要を記す。

古墳時代の集落跡

古墳時代の竪穴住居跡は９軒確認され、出土した土器から古墳時代前期に所属する。住居跡は２区とした南側調査区から主に検出されているが、

図５　１区（北側調査区）全景　南から

東西の調査地境にかかる住居跡も確認されており、居住域はさらに調査地外に続いていると推測される。確認された竪穴住居跡は、一辺が7m程の方形で、いずれも建物の向きが西側に傾いている。

遺物は住居内に堆積した埋土や床面から、多くの土器片が出土している。特にSB56とした竪穴住居跡の壁際には、完形の甕が床面に口縁部が出る状態で正位に埋められている。遺物の多くは在地の土器であるが、中には北陸地方や東海地方の影響を受けた土器も認められた。

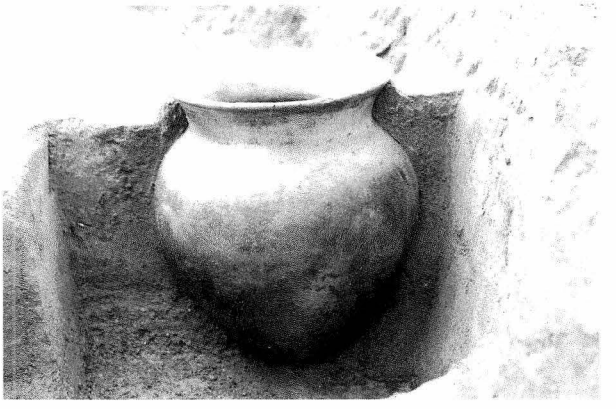


図６　住居内に埋められていた甕

奈良・平安時代の集落跡

奈良・平安時代の遺構は、竪穴住居跡55軒、井戸跡１基などが検出されている。住居跡の多くは平安時代前期に所属し、調査地の全域で確認され、遺構が重複した状態でみつかっている。

調査地中央付近では、住居跡がやや疎となる。調査地内は工場地としてかなりの部分が削平されていて、後世の開発によって遺構が消失してしまった可能性も考えられる。

また、調査区境にかかる住居跡が確認され、居住域は調査区外へと続き、集落がさらに広がりをもつと考えられる。確認された住居跡は一辺が5m程と、古墳時代の住居跡に比べると小形で、建物の向きはほぼ南北方向にそろっている。

多くの住居跡が重複し、カマドの位置を確認できた住居跡は少ない。確認することができた住居跡では、そのほとんどが北壁中央付近に設けられていた。

図７　支脚の上に坏が逆位にのせられていたカマド

遺物は、カマドやその周辺から多くの土器が出土している。土器の多くは一般的な集落で使われる甕や坏などであるが、円面硯や帯金具など、一般的な集落では、あまりみられない遺物がみつかった。このことから、調査地周辺に役所が存在していた可能性も考えられる。

中世の居館跡

中世の遺構としては、堀跡１条・井戸跡１基・墓跡３基などが検出されている。

２区とした南側の調査区で検出された堀跡は、調査区西寄りで南北方向に直線的に延び、調査区北側で東西方向へ延びていることが確認された。堀跡の規模は幅約3m深さ約1.5mである。西辺の南寄りには幅約2mの範囲で堀が途切れる場所があり、敷地への出入口となる土橋と考えられる。

なお、堀で囲まれた区域では、掘立柱建物跡などの遺構は確認されず、直径約2mの井戸跡が１基検出された。調査区の東側には、中世の武士の居館として高野氏館跡（桐原要害）の推定地があり、発見された堀跡が居館をとり囲む堀であったと考えられる。

１区とした北側調査区にある墓跡は、頭を北にして手や足を折り曲げた姿勢で人が埋葬されていた。その内、２基は人骨の保存状態が良好で茂原信生氏（国立大学法人京都大学名誉教授）に鑑定していただいた。SM1の被葬者は男性、SM2の被葬者が女性で、いずれも高齢であることなどが分かった。

遺物は、堀跡や井戸跡の埋土から13世紀後半

（鎌倉時代）のかわらけ（土師質土器）や青磁・白磁の破片、銭貨などが出土している。

今年度の調査では、古墳時代の初めのころから調査地に大規模な集落が営まれ、中世には武士の館跡の一部として利用されていたことが分かってきた。

来年度以降、調査が継続し、調査地周辺に存在したといわれている「牧」に関係する遺構や、今年度には確認されなかった縄文時代や弥生時代の遺構等、新たな発見が期待される。

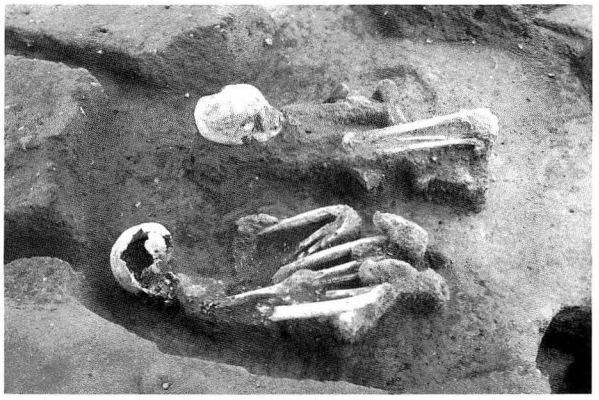


図８　墓跡（手前：SM1　奥：SM2）

図９　堀跡全景

(4) 大道下遺跡（おおみちした）
清水東遺跡（しみずひがし）

（一般国道18号野尻バイパス改築工事）

大道下遺跡

所在地及び交通案内：信濃町大字穂波。JR古間駅から西南西へ約1.2km。

遺跡の立地環境：野尻湖遺跡群の南端、鍋山北西側の湧水地を中心とした丘陵斜面。

調査期間	調査面積	調査担当者
23.8.1 ～ 9.30	510㎡	谷和隆　市川桂子

検出遺構・出土遺物

遺構の種類	数	時期
土坑	2	不明
遺物の種類	時期・内容	
土器	縄文、平安	

調査区は国道18号の東側拡幅部にあたり、幅1.4m ～ 4.5mほどの狭い範囲である。調査区の狭い箇所には、人力による1m × 2mの坪掘りを5か所に入れた。比較的広い範囲は、重機によりローム層上面まで表土を剥ぎ取り、面的調査を行い、さらに下位の確認のため1m × 2mの坪掘りを8か所に入れた。調査区は駐車場として利用されていたため、中央付近が黄褐色のローム層（Ⅳ層）上部まで、駐車場造成により削平されていた。調査区南部および北部は黒色土（Ⅱ層：柏原黒色火山灰層）から、縄文土器の無文部、平安時代の土師器片と須恵器片が出土した。

検出された遺構は、土坑のみである。このうち土坑1基は形状・規模から縄文時代の陥し穴の可能性も考えられるが、出土遺物が無く、単独であることから特定には至らなかった。もう1基の土坑は柱穴状で時期は不明である。

今回の調査から国道西側で検出されていた縄文時代の遺物の分布域や平安時代の集落域が国道東側まで広がることが確認された。

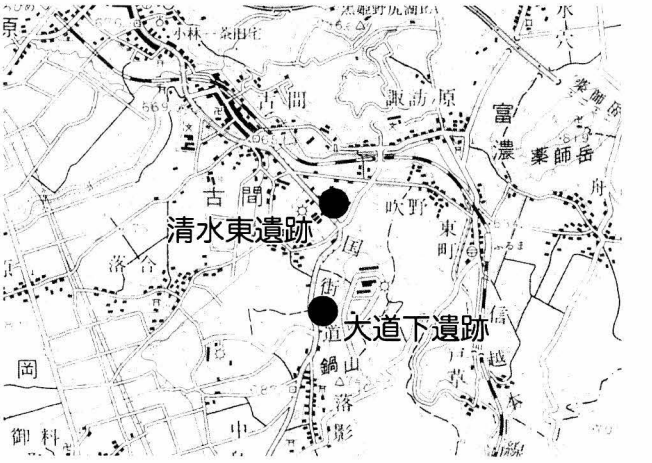


図10　大道下遺跡、清水東遺跡の位置（1：50,000 戸隠）

清水東遺跡

所在地及び交通案内：信濃町大字古間。JR古間駅から西へ約1.1km。

遺跡の立地環境：野尻湖遺跡群の南端、鳥居川右岸の段丘上。

調査期間	調査面積	調査担当者
23.8.1 ～ 9.30	630㎡	谷和隆　市川桂子

検出遺構・検出遺物

なし

調査区は国道18号の拡幅部で、幅約7mである。調査区の北部と南部に国道と平行して2本のトレンチを設定し、ローム層上面まで掘削をおこなった。さらに下位の確認のため人力で1m × 2mの坪掘りを12か所に入れた。その結果、調査区全域でローム層の水成堆積が確認された。

調査区は遺跡の南部から北の鳥居川方向へ延びる浅い谷部にあたる。遺跡の中心は調査区より北側の微高地にあると予想され、今回の区域が遺跡の立地として水辺に近すぎ、遺構・遺物が検出されなかったと考えられる。

図11　大道下遺跡　調査風景

(5) 鬼釜遺跡（おにがま）・鬼釜古墳（おにがまこふん）

（飯喬道路関連）

所在地及び交通案内：飯田市上久堅。天竜川（水神橋）から東側に約 6km。

遺跡の立地環境：玉川左岸の段丘上。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
23.4.23 ～ 12.19	16,300㎡	河西克造　三木雅博 古賀弘一

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	13 軒	縄文 3、平安 10
竪穴建物跡	2 軒	中世
掘立柱建物跡	15 棟	平安以降 1、中世以降 14
墳墓	1 基	鬼釜古墳
墓坑	2 基	縄文 1（土坑墓）、古墳 1（馬の埋葬土坑）
陥し穴	1 基	
土坑	190 基	縄文 19、平安 6、中世以降 165
溝	3 条	中世 1、近世以降 2
土器集中	3 基	縄文

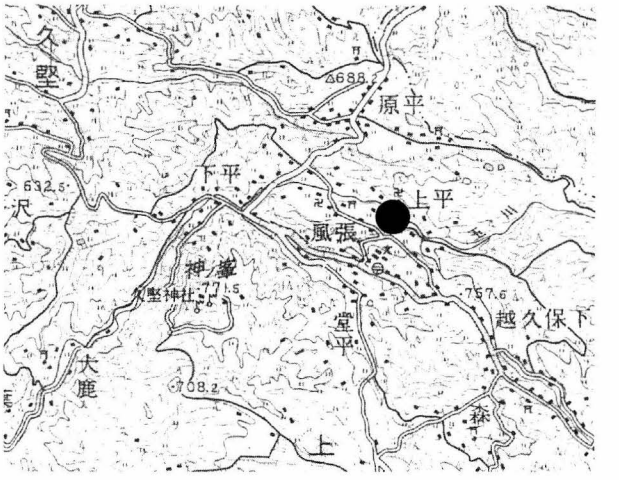


図 12　鬼釜遺跡・鬼釜古墳の位置（1：50,000 時又）

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	縄文中期（深鉢）、古墳（甕・甑・高坏）、平安（埦）、中世（青磁碗、瀬戸美濃産天目茶碗）、近世以降（碗・皿）
石器	縄文（打製石斧、磨製石斧、横刃型石器、石鏃、磨石）
土製品	縄文（土偶）
石製品	縄文（有孔磨製石斧）、古墳（管玉、勾玉、臼玉）
青銅製品	古墳（耳環）
鉄製品	古墳（馬具、鉄鏃）

自然堤防上に広がる集落と墓域

鬼釜遺跡は権現山・二本松山付近を水源とする玉川によって浸食された段丘崖を北限とし、東西約 900 m、南北約 250 mに及ぶ。調査対象地（飯喬道路路線内）の地形は、この玉川に沿って東西方向に延びる自然堤防と、自然堤防背後（南側）の低地、流路跡に分かれる。平成 21 年度に流路跡を調査し、今回は自然堤防部分と低地部分を対象に調査を行った。

調査の結果、自然堤防上では、縄文時代、平安時代、中世の各集落、古墳時代の墓域が確認された。以下、特筆される遺構を紹介する。

縄文時代では、中期後半の深鉢の破片を重ねて敷き並べた炉をもつ竪穴住居跡（SB14、図 13）や、中期後半の深鉢土器を遺体に被せたと考えられる土坑墓（SK192、図 14）がある。

平安時代では、一辺が 6 mを超える規模で中央北側もしくは東側にカマドをもつ前半頃と、一辺

図 13　SB14　土器敷炉

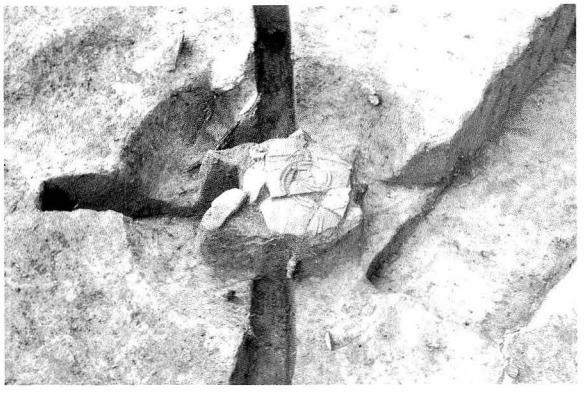


図 14　SK192　土器出土状況

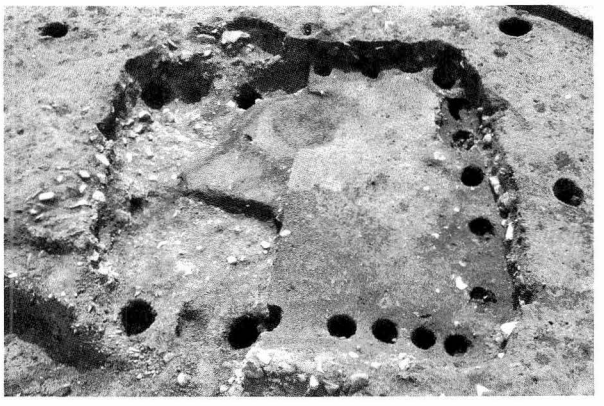


図 15　壁際に柱穴がめぐる竪穴建物跡（SB04）

約 4.5 m規模で、東隅にカマドをもつ後期の竪穴住居跡とが確認された。両者とも床面直上に多量の炭化材・焼土が分布する住居跡があり、焼失住居の可能性がある。

中世以降では、竪穴建物跡と掘立柱建物跡が自然堤防ほぼ全域にわたって分布する。

竪穴建物跡は一辺約 2.5 mの正方形、壁際に柱穴がめぐる構造で（図 15）、出土陶磁器と埋土、他遺構との重複関係から中世に比定される。中央やや西側に被熱した炉跡が存在し、小規模であることから、何らかの作業場とも推側される。

掘立柱建物跡は出土遺物がなく、時期を特定できないが、柱穴の埋土の観察から中世に帰属するものと推定している。なお、建物跡は同一地点で重複もしくは近接する状況が確認された。

約 120 年ぶりに発見された鬼釜古墳

いままで、鬼釜古墳の正確な位置は不明で、調査区に隣接する久堅神社内に古墳の石室に使われ

図 16　鬼釜遺跡・鬼釜古墳　全景

たと伝承される石（天井石と側壁石もしくは奥壁石）があり、同地に古墳が存在するとされていた。鬼釜古墳は明治25年頃発掘されていたが、発掘場所は不明で、須恵器の提瓶と馬具などの出土遺物から6世紀の古墳と推定されていた。

今回の調査では、久堅神社の一部と隣接する場所から周溝が確認された。周溝は、直径約20mで円形にめぐり（口絵）、埋土から須恵器甕・瓶、土師器の高坏など6世紀の土器が出土した。明治25年頃の調査成果と今回の出土土器が同じ時期と考えられるため、周溝を鬼釜古墳に伴うものと判断した。

周溝の形状と久堅神社地に残る石室の石の規模からすると、鬼釜古墳は6世紀の円墳で、石室構造は横穴式石室の可能性が推測される。鬼釜古墳の正確な位置や規模・形状が今回の調査である程度明らかになった。

さらに、周溝内では周溝の縁に沿うように長辺1.95m、短辺1.10mの長方形の土坑（SK174、図17）を検出した。SK174の底部付近からは、鉄製の馬具（鞍金具2点、雲珠1点）が出土し（図18）、馬の埋葬土坑と認識している。SK174の時期は、周溝と同時もしくは直後に掘削されたと考えられ、時期が周溝出土土器から6世紀に比定される。

馬の埋葬土坑は、飯田市域で28例が確認されている。すべて天竜川以西の遺跡から発見されており、時期は5世紀である。SK174は天竜川以東において初めての発見例で、6世紀以降の事例としても、高森町北林5号墳について2例目である。

SK174は古墳の被葬者を埋葬する際に馬を殉葬した穴と推定している。この土坑の発見で、6世紀に上久堅地区で馬の生産・飼育が行われていた可能性が浮上した。下伊那地域における馬の生産・供給体制の変遷を考えるうえでも貴重な発見と言える。

鬼釜古墳の墳丘と石室は残っていなかった。石室想定地では、明治期の発掘痕跡と推測される穴と、明治期の発掘以降に石室の石を抜き取る際に掘ったと推測される穴が確認された。これらの穴の上部には、近世～近代の陶磁器や寛永通宝を含

図17　馬の埋葬土坑（SK174）

図18　SK174　馬具出土状況

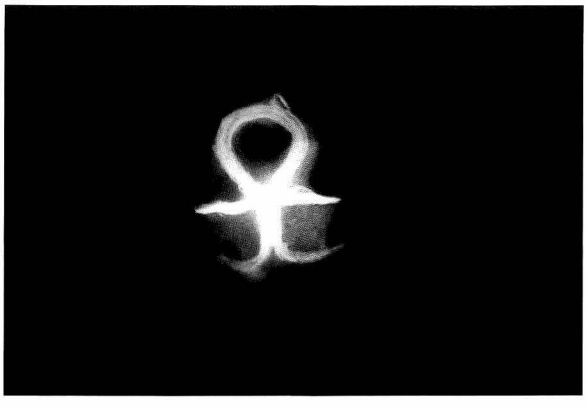


図19　SK174　出土鞍金具　X線写真

む盛土が堆積しており、盛土からは古墳時代後期の土器とともに鬼釜古墳に副葬されていたと推定される耳環・管玉・臼玉・ガラス小玉・鉄鏃が出土している。

鬼釜古墳の石室の入口部は、周溝が途切れている南側、もしくは調査区外（久堅神社地）である西側に存在したものと推定される。

(6) 小山の神B遺跡

（中部横断自動車道関係）

所在地及び交通案内：佐久市小宮山布替戸647ほか。県道145号線小宮山入口から南西へ約1km。

遺跡の立地環境：蓼科山麓から東に延びる尾根の南東斜面（小宮山川左岸）にあり、標高は729m前後となる。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
23.8. 2 ～ 12.21	2,900㎡	黒岩隆　内堀団　市川桂子

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	14	縄文（前期初頭9、前期後半5）
土坑	128	縄文～近世（うち、縄文前期貯蔵穴（フラスコ状土坑含む）約15）
溝跡	5	弥生～近世
焼土跡	1	縄文（前期）

蓼科山麓の尾根に位置する集落跡

蓼科山の東北麓から幾重にも延びる尾根の一つに、遺跡は立地している。尾根の南東側は緩やかに傾斜しており、その日当たりの良い斜面に、縄文時代前期の集落が営まれていた（図21、22）。遺跡の北側は標高が735mと最も高く、その先では浅間山が望める。調査区の北西と南東では標高差が10mある（図23）。

図21　遺跡遠景（南東方向から）

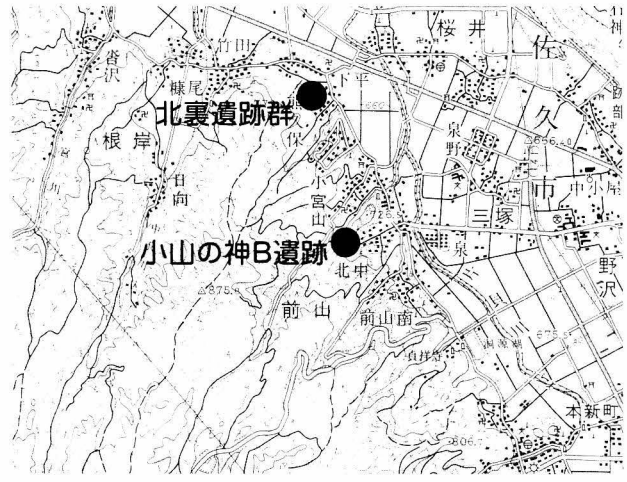


図20　小山の神B遺跡の位置（1：50,000小諸）

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	縄文（前期初頭、前期後半）、弥生（前期）、古代、中近世（青磁、陶磁器）
石器	縄文前期（石皿、磨石、石鏃、石匙、石錐、スクレイパー、打製石斧、磨製石斧、石槍）、弥生前期（石鍬）
金属製品	中近世（銭貨、キセル、鉄滓）

遺跡は昨年までに、隣接する南側で、佐久市教育委員会の調査により、縄文時代前期の土器片や黒曜石の破片が発見されていた。また、昨年の長野県教育委員会の試掘調査で、遺跡範囲が尾根頂部まで広げられた。発掘調査は当初、南北方向のトレンチによる調査で、調査区南東側において縄文時代前期の竪穴住居跡（SB01）が発見され、全体を面的に調査することになった。

尾根に連なる縄文前期の集落跡

遺跡は、今から約6,500年前の縄文時代前期初

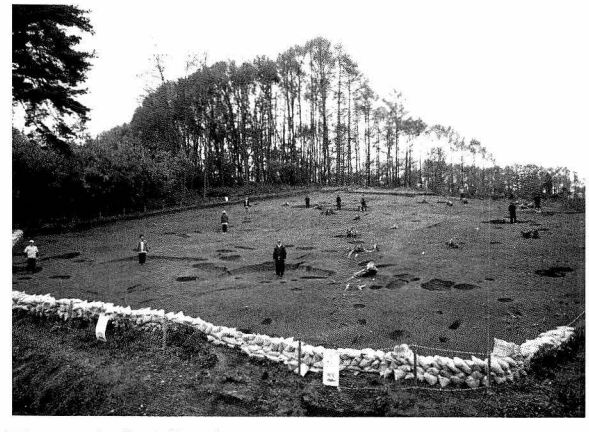


図22　縄文時代前期の竪穴住居跡群（人の立つ位置）

頭の時期から集落がつくられ始め、約1,000年の時を隔てて、再び集落が営まれた（図24）。最初の集落は、北佐久郡御代田町の塚田（つかだ）遺跡出土土器に類似する土器を伴い、9軒が弧を描くように並んでいる。すべてが同時に存在したかは、今のところ明確ではないが、ほぼ等間隔に並んでいる点は興味深い。

また、約1,000年隔てたのち、縄文時代前期後半の神奈川県諸磯（もろいそ）貝塚出土土器からその名が冠された諸磯c式土器を伴う、5軒の竪穴住居跡が検出されている（図25）。

集落が営まれた縄文時代前期は、現在より平均気温が2℃ほど高く、日本列島が最も温暖だった時期であり、ドングリなどの堅果類も豊富に採れ、その貯蔵のための土坑も掘られた。フラスコ状土坑と呼ばれる典型的な貯蔵穴も見つかっている（図26）。初頭の時期には、貯蔵穴は住居の外に掘られることが多かったが、後半になると住居内に取り込まれる傾向がみられる。

食料の確保、定住生活の安定を意識し、縄文前期の竪穴住居に住む人たちは、身近な所に貯蔵穴を設けたと考えられる。

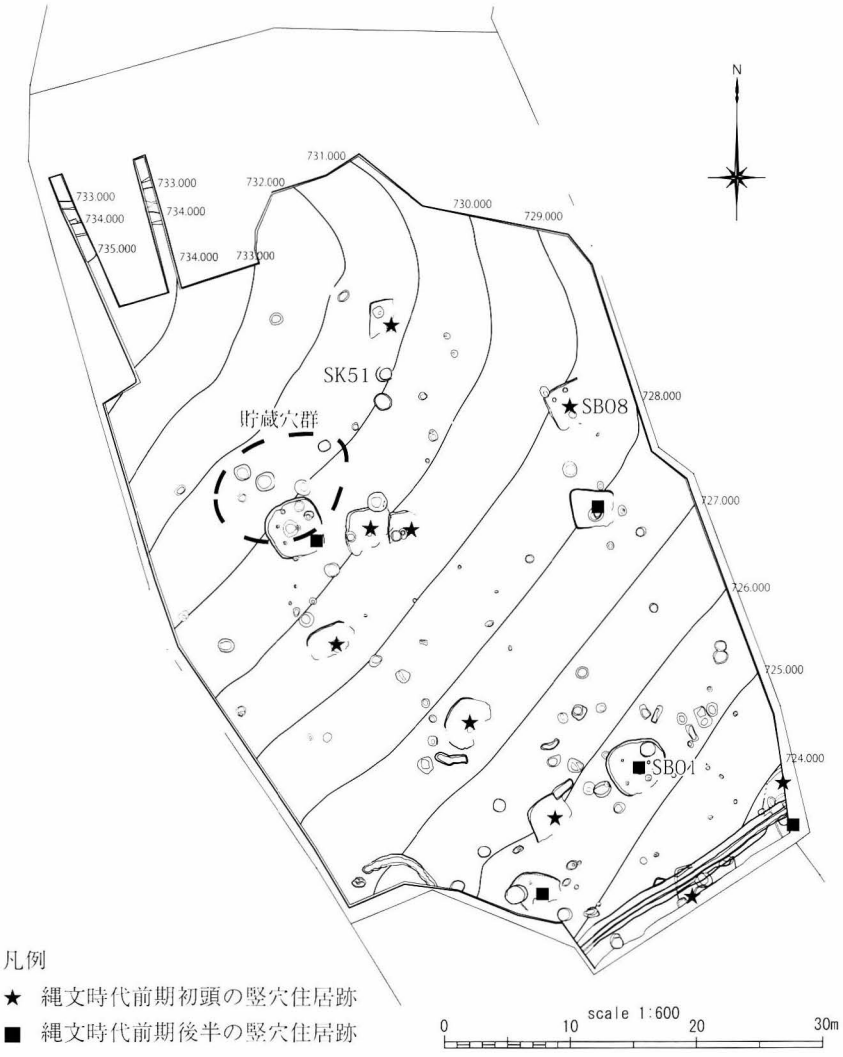


図23　小山の神B遺跡の遺構全体図（1：600）

図24　縄文時代前期初頭の竪穴住居跡（SB08）

図25　縄文時代前期後半の竪穴住居跡（SB01）

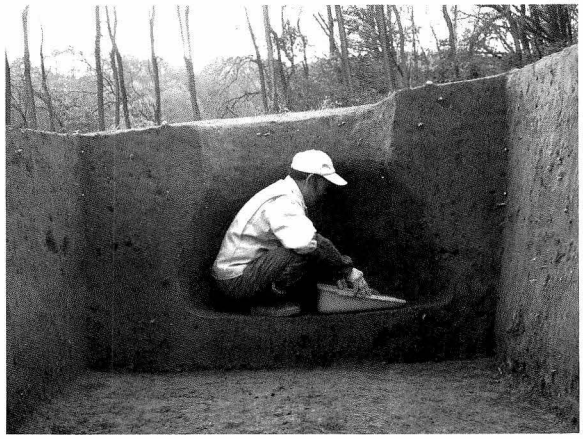


図 26　縄文時代前期後半のフラスコ状土坑（SK51）

図 27　縄文時代前期初頭の貯蔵穴群（調査区北西側）

山裾に点在する縄文前期の集落跡

小山の神Ｂ遺跡より 1km ほど北側の尾根には、6 軒の竪穴住居跡が発見された後沢（うしろざわ）遺跡があり、北西に 2.5km先の尾根では、12 軒の竪穴住居跡がみつかった榛名平（はるなびら）遺跡がある。それぞれ、小山の神Ｂ遺跡では竪穴住居が営まれない縄文時代前期中葉の時期を中心とする。

旧佐久市域で、縄文時代前期の集落跡はこの 3 遺跡である。いずれも、尾根にあり、前期の集落は、蓼科山から千曲川に向かって無数に延びる尾根に眠っている可能性が高い。

佐久地域の縄文時代前期の人たちの生活を復元する時、共通の特徴的な立地を有するこれらの遺跡を併せて検討することが必要である。

(7) 北裏遺跡群（きたうらいせきぐん）

（中部横断自動車道関連）

所在地及び交通案内：佐久市伴野北裏 840－1 ほか。中部横断自動車道佐久南 IC から南西約 0.2km。

遺跡の立地環境：千曲川及び千曲川に注ぐ片貝川左岸の低地から段丘上にかけて立地する。今年度の調査は段丘上（標高 662 ～ 666m 前後）である。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
23.7.7 ～ 8.26	1,900㎡	藤原直人　曳地隆元

検出遺構・出土遺物

遺構の種類	数	時期
溝跡	1	不明

遺物の種類	時期
土器・陶磁器・石器	縄文、弥生（石鏃）古代～中世

図 28　4 区で検出された溝跡

本遺跡は平成 19・21・22 年と 3 回の調査が行なわれており、今年度が 4 回目の調査となる。今年度の調査対象は 4 区とした部分である。現在周辺は住宅と畑が広がっている。

今回の調査では 1 条の溝跡を検出した。溝跡は調査区を東西に横断し、両端ともに調査区外に続いていた。溝跡からの出土遺物は土器･灰釉陶器･陶磁器などである。遺物は小片であり、溝跡の時期を特定することは難しかった。北裏遺跡群において、4 区は遺構の検出が極端に少ない区域であり、遺跡の中の位置づけを今後検討する。

(8) 高尾A遺跡

（中部横断自動車道関連）

所在地及び交通案内：佐久市前山字高尾 893－1 ほか。中部横断自動車道佐久南ICから南約2km。

遺跡の立地環境：八ヶ岳方面から北東にのびる丘陵の南東斜面に立地する。今年度調査区の標高は約 730 ～ 750m 前後にあたる。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
23.4.5 ～ 8.29	4,550㎡（本調査 1,500㎡、確認調査 3,050㎡）	谷和隆　太田潤 市川桂子

検出遺構

遺構の種類	数	時期
ブロック	1	旧石器
柱穴状遺構	5	不明
竪穴状遺構	1	縄文

調査区は北東に伸びる丘陵を約 160m の長さで北西－南東方向に横断している。

調査区を横断する市道を境に丘陵頂部を1区、丘陵斜面を2区、丘陵裾部を3区と設定した。平成 20 年度に当センターによる確認調査で、2区の北東部に旧石器時代の遺構が広がることを確認し、今年度に本格的な調査を行うこととなった。

沢跡に残された旧石器時代のキャンプ跡

2区の調査は旧石器時代の石器の分布が確認された 16 m × 8 mの範囲と、その周辺に 2m × 2m のテストピット 12 ヶ所を設定し、直下から人力による掘り下げを行った。

その結果、Ⅰ～Ⅲ層とした暗褐色・黒褐色土から縄文土器片、土師器片、須恵器片等が検出されたが、上部から流されてきたものと考えられる。

2区の縄文時代以降の包含層の下層から 361 点の旧石器時代の石器が出土した。出土層位は砂や小礫を多く含む褐色シルトのⅣ層が中心となる。

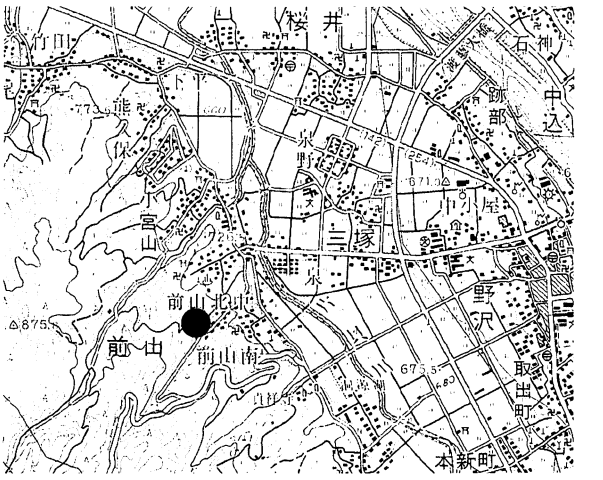


図 29　高尾A遺跡の位置（1：50,000 小諸）

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
石器	旧石器（台形石器、貝殻状刃器、掻器状石器、削器）、縄文・弥生（石鏃、打製石斧、磨製石鏃、石錐）
土器	縄文（前期）、弥生、平安（土師器、須恵器）、中世（青磁）
金属製品類	銭貨（中近世）

石器は沢状の窪地の縁に沿う長さ 17 m、幅 7m 程度のブロック 1 か所から検出されている。

器種組成は台形石器 4 点、掻器状石器 2 点、貝殻状刃器 40 点、削器 4 点、厚刃掻器 1 点、石核 2 点、剥片 236 点、砕片 72 点である。石器が二次的に動いていると考えられるが、磨滅が少なく、分布にまとまりがあることから移動距離は数 m以内と短く、原位置も沢状地形の窪地内にあると考えられる。

4 点の台形石器は長さ 2.5cm 前後で、左右の側縁に平坦や急角度な剥離、折断の加工が施されている。貝殻状刃器は急角度の剥離、折断面、打面等による側縁と、鋭い素材縁辺による刃部を持つ。石刃と石刃を素材とする石器は存在しない。

石材はすべて黒曜石である。球顆や夾雑物の状況から、麦草峠や冷山等の八ヶ岳周辺で採取された可能性が考えられる。

石器の特徴から今回発見された高尾A遺跡の石器群は旧石器時代の姶良丹沢火山灰降灰以前（約 2.5 万年以前）の石器群と考えられる。

また、本調査と並行して確認調査を実施した。竪穴状遺構1基と柱穴状遺構5基を検出し、周辺からは縄文時代前期の土器片が出土した。

図30　高尾A遺跡遠景（南より）

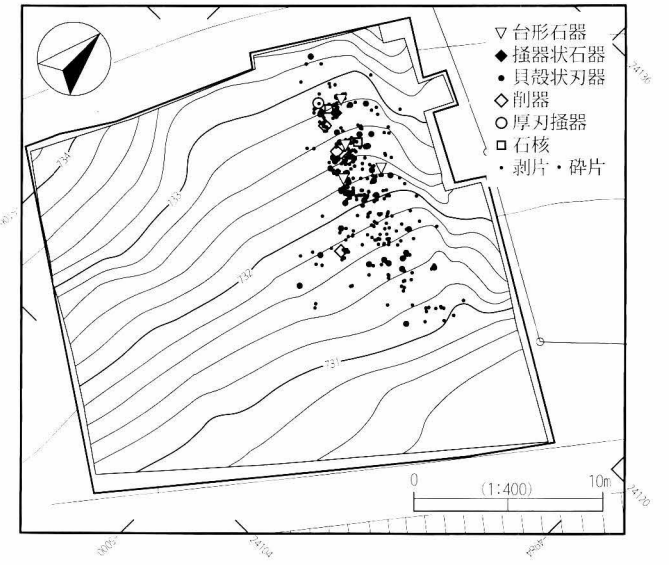


図31　2区旧石器時代の地形と石器の分布

(9) 兜山遺跡（かぶとやま）

（中部横断自動車道関連）

所在地及び交通案内：佐久市大沢。国道141号線本新町交差点から西約1.3km。

遺跡の立地環境：蓼科山麓から東に伸びる低丘陵の南側斜面、標高は735m前後を測る。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
23.10.4 ～ 11.21	340㎡	谷和隆　宮村誠二

検出遺構・出土遺物

遺構の種類	数	時期
古墳（横穴式石室）	1	古墳

遺物の種類	時期・内容
土器・石器	縄文（土器、打製石斧）、古墳～古代（須恵器）

兜山遺跡は平成20年度の発掘調査時に、古墳の石材の一部が確認され、未周知の古墳の存在が明らかとなった。

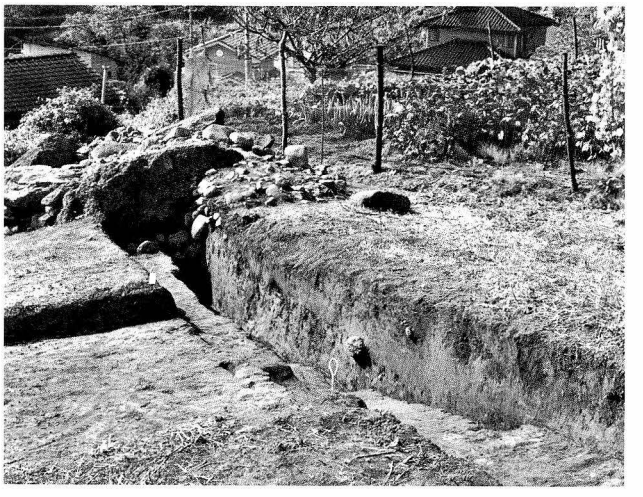


図32　調査状況

今年度の調査地点は、墳丘等の施設が予想される横穴式石室の東側隣接地で、石室から放射状にトレンチを設定したが、墳丘の盛土や周溝等は確認できなかった。

遺物はトレンチからも少量出土したが、古墳の年代を絞り込むものではなかった。本古墳の石室は佐久地域に分布する横穴式石室の中でも比較的大きく、今後の調査成果が期待される。

(10) 大沢屋敷遺跡（おおさわやしき）

（中部横断自動車道関連）

所在地及び交通案内：佐久市大沢。国道141号線大沢下町交差点から西約1.3km。

遺跡の立地環境：千曲川左岸、大沢川が形成した扇状地上に立地する。標高は704 mを測る。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
23.9.12 ～ 11.28	1,880㎡	若林卓　伊藤友久　宮村誠二

検出遺構

遺構の種類	数	時期
円形土坑列	1	縄文後期
土坑	8	縄文後期

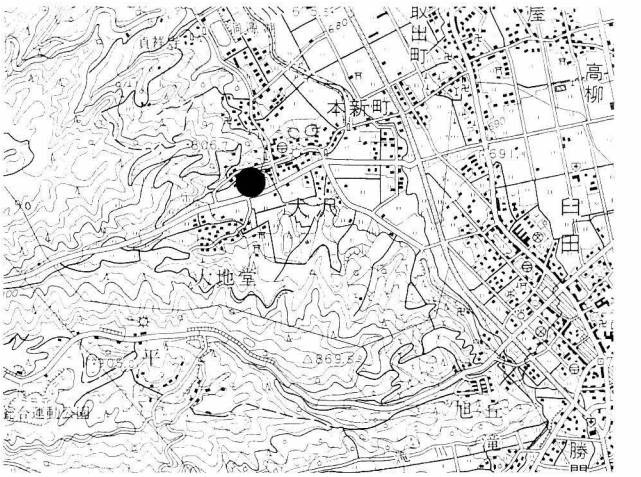


図33　大沢屋敷遺跡の位置（1：50,000小諸）

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器	縄文（中期～後期）
石器	縄文（石鏃、磨製・打製石斧、剥片）
金属製品	中世（銭貨）

扇状地上に残された縄文時代後期の土坑群

佐久平西縁部には八ヶ岳から張り出した丘陵が幾重にもみられる。遺跡は、そうした丘陵の間を東流する大沢川が形成した扇状地に立地する。

発掘調査の対象地は、扇状地中央を通る県道150号線と北寄りを流れる大沢川の間に位置し、南北110mほどの細長い範囲である。現道と耕地境により対象地を三分割し、南から1～3区の調査区を設定した。

1区と3区で、基盤となる黄褐色シルト～砂礫層の直上に堆積した遺物包含層と、包含層を掘り込む土坑が確認された。2区は削平のため包含層が失われており、遺構・遺物とも検出されなかった。

包含層の土器片は縄文時代後期のものが大部分を占める。また、土器片のなかには、ほとんど磨滅せず、割れ口がシャープなものもある。遠方から長期にわたって流れてきたとは考えにくく、今回の調査範囲のからさほど遠くない上流部に、集落跡など、遺物の供給源が存在すると推測される。

遺構は1区南端部で6基、3区北端部で円形土坑列1基・土坑2基が検出された。3区の円形土坑列は8基が直径5m強の円形に並ぶ。床や炉跡は遺存していないものの竪穴住居の痕跡、あるいは柱のみの構築物である可能性があろう。

土坑から出土する土器は、包含層出土のそれと同じ様相を示している。遺構群の時期については、縄文時代後期にはおさまるものと考えている。

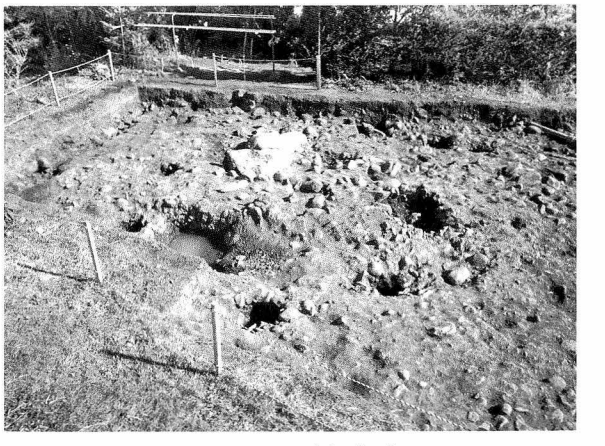


図34　円形土坑列

(11) 前の久保遺跡

（中部横断自動車道関係）

所在地及び交通案内：佐久市大沢 1629－4 ほか。
国道 141 号線大沢交差点から南西約 1.2km

遺跡の立地環境：千曲川左岸の北八ヶ岳・蓼科山地の裾野にある。片貝川と大沢川の合流点の北斜面に位置し、標高は約 720m を測る。

調査期間	調査面積	調査担当者
23.4.5 ～ 7.27	5,910㎡	藤原直人 市川桂子 曳地隆元

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居址	1 軒	弥生
土坑	16 基	不明
溝跡	1 条	弥生
焼土跡	1 基	不明

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器・石器	縄文、弥生（後期）、平安、中世

丘陵北斜面で発見された弥生時代の遺構

平成 20 年度の確認調査によって、弥生時代の竪穴住居跡 1 軒、縄文時代の土器集中 1 か所や時期不明の土坑、黒色土の落込みなど 3 基が確認され、今回 5,910㎡について本調査を行った。

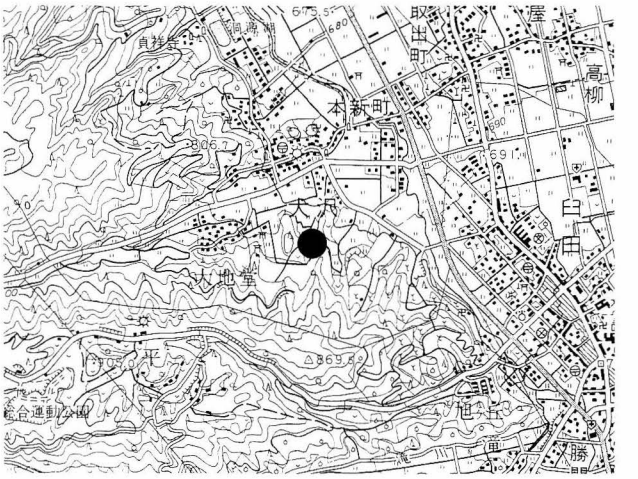


図 35　前の久保遺跡の位置（1：50,000 小諸）

今回の調査で発見された遺構は、弥生時代の竪穴住居跡と溝跡、土坑で主に調査区の北側で検出された。遺物は、住居跡や溝跡、またその周辺で弥生時代後期の土器片が出土している。縄文時代の土器集中は、土器が少量検出されたが、掘り込みは極わずかで 1cm 程であった。後世の造成などにより削平を受けていたものと考えられる。その他、中世陶磁器の破片が出土しているが、遺構は検出されなかった。

調査区の西側（2 区・4 区）では小河川の氾濫による礫層が堆積する。遺構は検出されなかった。また、南側（3 区）の急傾斜地では後世の造成による削平によって、下層の基盤層が露出し遺構は検出されなかった。

遺構が検出された 1 区は斜面の傾斜が緩い地区であり、北側の用地外には同様な地形がみられ、弥生時代の集落が広がっていることが予想される。このことから、今回は弥生時代集落の南端を調査したものと考えられる。

図 36　遺構の検出作業

図 37　竪穴住居跡の掘下げ作業

(12) 三枚平B遺跡（さんまいびらびー）

（中部横断自動車道関係）

所在地及び交通案内：佐久市大沢 1360－1 ほか。
国道 141 号線大沢下町より南西へ約 4km。

遺跡の立地環境：蓼科山麓から東に延びる尾根の南斜面（片貝川左岸）。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
23.7.12 ～ 8.26	900㎡	黒岩隆　内堀団

検出遺構・出土遺物

なし

今回の調査は狭小な調査区で、トレンチ調査を行った。斜面の谷側を中心に最大２ｍの盛土をしている様子が、断面で観察された。盛土部分の下層で、暗褐色土の旧表土と考えられる層が確認できたが遺構は検出されなかった。遺物は出土していない。地元の方によると、今回の調査範囲の部分（特に北側）は昭和の初め頃、削平して埋め戻し、一面桑畑にしたとのことである。近代の耕作、現代の掘削・盛土により、遺跡は消滅した可能性が高いと考えられる。

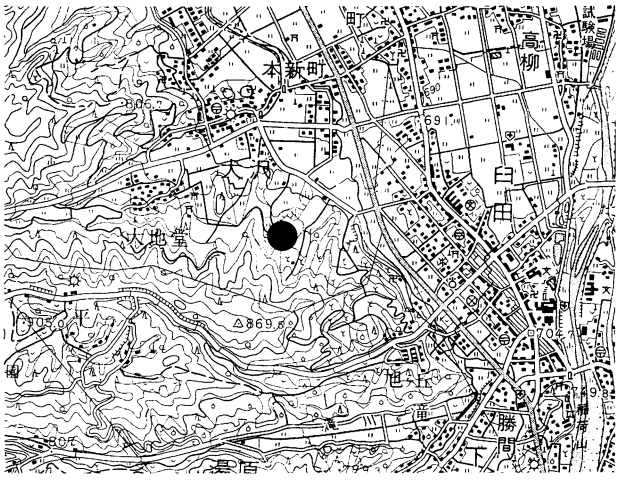


図 38　三枚平Ｂ遺跡の位置（1：50,000 小諸）

(13) 滝ノ沢遺跡（たきのさわ）

（中部横断自動車道関係）

所在地及び交通案内：佐久市臼田字滝ノ沢 3951 ほか。県道 141 号線美里南交差点から西へ約 1km。

遺跡の立地環境：北八ヶ岳・蓼科山地から東に延びる丘陵の北東斜面に位置する。

調査期間	調査面積	調査担当者
23.8.29 ～ 11.28	1,500㎡	藤原直人　太田潤　曳地隆元

検出遺構　なし

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器・石器	縄文（石鏃、剝片）、古代、中世

調査区の現況は、畑地跡と未伐採の雑木林地区である。そのため、今年度は比較的樹木の少ない畑地跡について人力による坪掘り・トレンチを用いた確認調査を行った。

その結果、遺構は検出されなかったが、縄文時代から古代、中近世の土器、陶磁器の破片、石器などが表土層から出土している。小片ではあるが、100 点近い遺物が出土していることから、今回の調査区の西側の小高い尾根状の地区や、用地外ではあるが南に広がる平坦な谷地形上にはそれらの時代の遺構が存在している可能性が推測される。

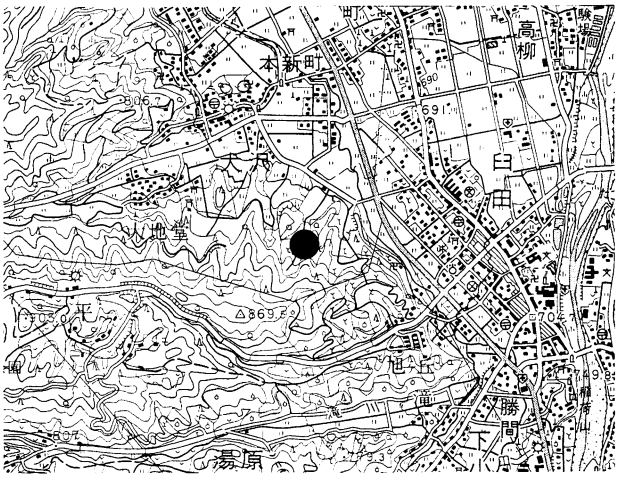


図 39　滝ノ沢遺跡の位置（1：50,000 小諸）

(14) 滝遺跡

（中部横断自動車道関連）

所在地及び交通案内：佐久市湯原 961－4 ほか。国道 141 号線下小田切を西へ約 1m。

遺跡の立地環境：蓼科山東麓から続く尾根の裾部、片貝川に合流する滝川の支流中沢川の左岸に立地する。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
23.5.19 ～ 8.17	710㎡	黒岩隆　内堀団

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	3	古墳前期 2、平安 1
土坑	2	縄文～平安
焼土跡	1	古墳～平安

蓼科山東麓の山裾のムラ

遺跡は、和田遺跡がのる尾根の南側裾部に位置し、調査区東側の緩やかな斜面に、竪穴住居跡が 3 軒残されていた。時代別では、古墳時代前期（今から約 1,700 年前）の 2 軒（SB3、4）、奈良時代初期（今から約 1,300 年前）の 1 軒（SB1）である（図 41）。

古墳時代前期の住居跡 2 軒のうち、比較的残りが良い SB4 は一辺 4.5 m の隅丸方形で、壁は北西側の一番高いところで床面から約 70cm を測る。また、壁際に掘られた周溝には 2cm 厚の土留めのための板（羽目板）の痕跡も観察された。遺物はあまり出土しなかったが、出土遺物をみると和田遺跡より少し新しい時期の住居と考えられる。

奈良時代の住居跡 SB1 は、後世の住宅建設や耕作などによって大半が削られていたが、カマドは残存していた。カマドやその周辺からは甕などの破片が出土し、焼土は下部 5cm まで厚く焼けていた。

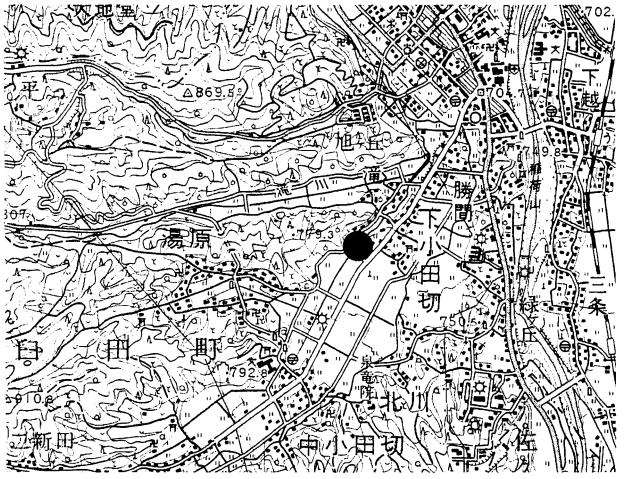


図 40　滝遺跡の位置（1：50,000 小諸）

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器	縄文土器（早期後半）、古墳前期（甕、壺、蓋）古代（土師器坏・甕、須恵器坏・甕、黒色土器坏・鉢・皿・盤）
石器	石鏃、磨製石斧、砥石（古墳）

滝遺跡のような遺跡立地は、上滝・中滝・下滝遺跡でもみられる。佐久地域における丘陵裾部の土地利用形態を考慮した遺跡の検討をする必要がある。

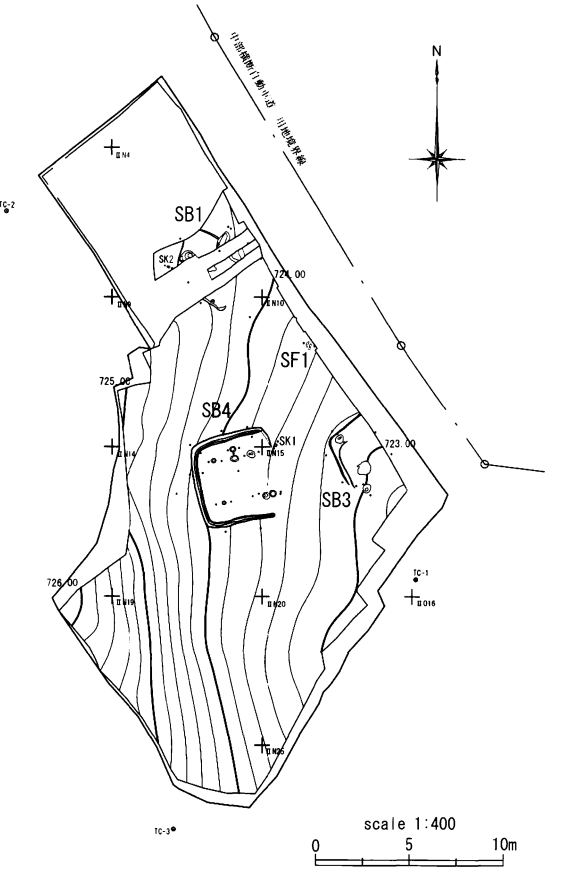


図 41　滝遺跡の遺構全体図

(15) 和田遺跡（わだ）　和田1号墳（わだいちごうふん）

（中部横断自動車道関連）

所在地及び交通案内：佐久市湯原。国道141号線下小田切交差点から南西約1.5km。

遺跡の立地環境：千曲川左岸、八ヶ岳の北端から延びる丘陵の末端部に立地。標高770～725 m。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
23.4.5～9.30	10,000㎡	若林卓　伊藤友久　宮村誠二

検出遺構

遺構の種類	数	時期
竪穴住居跡	4	弥生後期末～古墳初頭
竪穴状遺構	1	不明
土坑	5	不明
塚	1	近世末以降

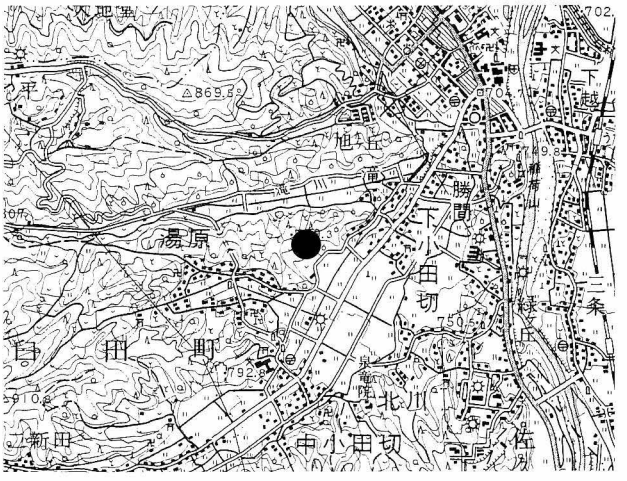


図42　和田遺跡の位置（1：50,000小諸）

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器・陶磁器	弥生後期末～古墳初頭、近世末～近代
石器	縄文・弥生（石鏃、剥片）
金属製品	中近世（銭貨）

丘陵上に営まれた弥生時代後期末～古墳時代前期初頭の集落（和田遺跡）

佐久平の千曲川左岸部には、八ヶ岳から張り出した丘陵が幾重にもみられる。和田遺跡はそうした丘陵のひとつに立地する。丘陵の南には千曲川支流の片貝川が流れる平地が広がっている。

昨年度に行った確認調査では、丘陵の頂部および北側斜面部では遺構・遺物は確認されなかったものの、南側斜面中腹部で弥生時代後期と考えられる竪穴住居跡が検出された。

それを受けて、本年度、南側斜面中腹部の面的調査を実施した。その結果、標高750～747 mの比較的傾斜が緩やかな部分に点在する4軒の竪穴住居跡を確認した。いづれも隅丸方形のプランを有し、出土遺物等から弥生時代後期末～古墳時代前期初頭に属すると考えられる。

2009年に南西側隣接地で行われた佐久市教育委員会による発掘調査でも、ほぼ同じ標高で3軒の弥生時代後期の住居跡が確認されており、丘陵南斜面の中腹部に集落域が帯状に延びていたことが明らかになった。今回調査範囲と佐久市教育員会調査範囲との間には未調査部分が存在するものの、弥生時代後期～古墳時代前期初頭の小規模な集落跡である可能性が高い。

なお、南斜面の下部でトレンチ調査を行ったが、遺構・遺物ともに検出されなかった。

近世末以降の塚（和田1号墳）

和田遺跡の一角に、直径約20 m、高さ2.5 mほどの円形のマウンドが1基存在しており、これが和田1号墳として登録されている。丘陵尾根主

図43　丘陵上に立地する和田遺跡

脈から南東に突き出した支尾根頂部に位置し、標高767 mを測る。立地や形状から、竪穴系の埋葬施設をもつ前･中期古墳の可能性が考えられたが、調査の結果、近世末以降に築かれた塚であることがわかった。

調査は、現況地形の測量を行った後、塚頂部および斜面部～外方に発掘区を設定した。盛土は、締りなく軟らかい暗褐色土で、築成の工程や方法を窺える状況は認められない。盛土中からは、和田遺跡で検出された住居跡と同時期の土器片のほか、銭貨（紹聖元寶、寛永通寶）や19世紀の灯明皿が出土した。最終的に、対象地内の盛土はすべて除去したが、埋葬施設を含め、内部施設は一切確認されていない。なお、塚構築以前の遺構はみつからなかった。

和田1号墳の南方1km、片貝川流域の平地を挟んだ対岸の尾根上に田島塚が存在する。田島塚は、奈良時代後半以降に築かれた塚に、近世末～近代頃、再び盛土を施したことが明らかになった（平成20年当センター調査）。和田1号墳の性格究明は今後の課題であるが、この田島塚との関係には注意する必要があろう。

図44　和田1号墳

（16）小山寺窪遺跡（こやまてらくぼ）

（中部横断自動車道関連）

所在地及び交通案内：佐久穂町高野町2037－1ほか。国道141号線千曲病院入口より西へ約800m。

遺跡の立地環境：八ヶ岳東麓、千曲川支流北沢川右岸段丘上の小丘陵の裾野。

発掘期間等

調査期間	調査面積	調査担当者
23.4.5 ～ 4.28	150㎡	黒岩隆　内堀団

検出遺構

遺構の種類	数	時期
土坑	13	古代～中世
溝跡	1	古代～中世

本年度は、遺跡北側の2区に残されていた鉄塔部分のみの調査となった。昨年、一昨年度の調査区から延びる溝跡1条が発掘され、1本の溝としてつながった。

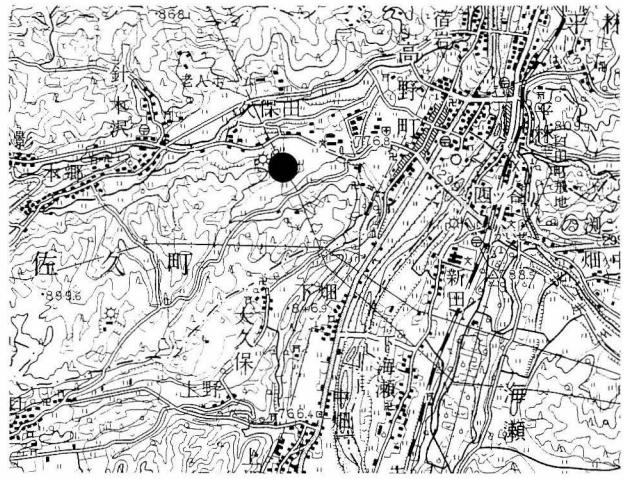


図45　小山寺窪遺跡の位置（1：50,000 蓼科山）

出土遺物

遺物の種類	時期・内容
土器	縄文

4年間の発掘調査で、古代～中世の竪穴建物跡24基、掘立柱建物跡15棟、土坑約1890基、溝跡17条、および中近世の水田跡を検出した。

南佐久地域の山間地にも古代、中世の集落が広がっていたことが明らかになった。それぞれの遺構の性格、構築年代等について、今後研究すべき課題は残されている。

Ⅲ　本格整理作業遺跡一覧

遺跡名	所在地	事業名	整理の内容（作業）	整理中の主な成果
千田（せんた）	中野市	千曲川替佐・柳沢築堤	縄文土器・分類・集計、抽出土器台帳作成、土器復元、遺物実測、遺構２次原図作成。	本文参照
川久保（かわくぼ）・宮沖（みやおき）			遺物実測、遺構･遺物トレース。計測台帳作成。	本文参照
柳沢（やなぎさわ）			報告書刊行。	本文参照
南曽峯（みなみそみね）	長野市	北陸新幹線	報告書刊行。	本文参照
沢田鍋土（さわだなべつち）ほか	中野市		土器の分類、接合、実測。遺物･遺構図版の作成。	本文参照
井戸端（いどばた）ほか	飯田市	飯喬道路	報告書刊行。	天竜川左岸において、中世の城とその眼下に点在する中世集落とを把握することができた。
東條（ひがしじょう）ほか	千曲市	一般国道 18 号 坂城更埴バイパス	報告書刊行。	八幡地区は古代更科郡衙推定地として知られ、今回の調査で古墳時代終末より中世に至るまでの約 1,000 年間の遺跡変遷をとらえられた。
近津（ちかつ）ほか	佐久市	中部横断自動車道	遺構図修正､デジタルトレース。遺物選別、接合、復元、実測。	浅間山麓の田切り台地に立地する遺跡で、古墳時代前期と平安時代後期を主とする。平安時代の住居跡は散漫な分布で南東隅にカマドを構築するという共通性がみられる。
西近津（にしちかつ）			遺構図修正、デジタルトレス。遺物選別・接合、復元、実測。	本文参照
周防畑（すぼうばた）			遺構図修正､デジタルトレース。遺物選別・接合・復元・実測。	濁り川右岸の微高地上に立地する遺跡で、弥生時代後期の集落跡と墳墓跡と奈良・平安時代の集落跡でどちらも密集する。奈良・平安時代の遺物には獣脚風字硯や須恵器薬壺、土師器鉄鉢形土器、則天文字と考えられる墨書土器などがある。佐久郡衙との関連も考えられる。
西一里塚（にしいちりづか）ほか			報告書刊行。	本文参照
森平（もりだいら）ほか			土器接合ほか。	湯川右岸の低位段丘上に立地する。弥生時代中期後半の集落跡。比較的短期間に営まれたと考えられる。

(1) 柳沢遺跡・千田遺跡・川久保遺跡・宮沖遺跡
（千曲川替佐・柳沢築堤関連）

千田遺跡

遺跡は中野市（旧豊田村）豊津に所在する。JR 飯山線替佐駅付近から千曲川の間に広がる集落遺跡である。平成 14・15・17・18・19 年度に発掘調査をした。今年度は、8 区以外の全調査区から出土した遺物の分類・集計・抽出、全調査区の住居跡以外を対象とする二次原図作成を中心とした遺構図面整理、8 区を中心とする土器復元、遺物実測等の作業を行った。

遺跡の変遷　調査区全体で最初に居住が始まったのはもっとも上流側に位置する 6 区で、縄文時代前期初頭土器がややまとまっている。これ以降、縄文時代前期末葉までの土器は 1 ～ 5 区に散見され、8 区には前期後葉の住居跡 1 軒がみられる。縄文時代中期前葉には斑尾川に近い 12 区に住居跡 1 軒があり、中葉以降 8 区に継続的な集落が営まれる。

8 区の集落は縄文時代中期中葉（大木 8a 式期）8 軒、後葉（大木 8b 式期）36 軒、末葉（大木 9 式期）3 軒と推移し、末葉には 1 ～ 5・7 区の大半が廃棄場となる。廃棄場には後期中葉までの遺物が含まれる。この地区で住居跡は確認されておらず、調査区西側に居住域が広がっていると推定される。

縄文時代後期前葉には 5 区東側が墓域となり、中葉には 9 区に小規模な配石遺構が現れる。縄文時代晩期終末頃には 12 区に土坑がみられる。

弥生時代には 7 区に中期後半土器を伴う土坑 1 基があり、後期前半には 8・9 区で住居跡 8 軒の集落が営まれる。後期後半には 12 区で住居跡 2 軒がみられる。古墳時代後期には 12 区に住居跡 16 軒、8 区に 3 軒、1 区に 1 軒がみられる。古代では 5 区に奈良時代後半の住居跡 1 軒がある。

中世以降は 5・8・12 区で集落跡が検出され、斑尾川に沿う低地の 10 区には洪水堆積層を挟んで重層する水田・畑跡が広がっている。

広大な調査区は、時期を異にして地点を変えながら、連綿と生活の舞台となっていた状況が明らかとなった。

多出した土偶の様相　全調査区から出土した土偶は、未接合の状態で約 240 点に上った。このうち縄文時代中期の住居跡 53 軒を検出した 8 区出土分は 195 点を占める。これだけでも縄文時代中期土偶としては長野県内で 1 遺跡最多出土例となる。完形品はみられず、接合例は 10 例足らずにとどまる。形態がわかるものは大多数が板状土偶に属し、頭部は河童形に属すものである。比較的大形品は短い両脚を付け、小形品は三角形状の胴下部をやや厚く作るか、そこに足先を付けて立像としている。背面には輪郭に沿う隆帯、小形品では沈線を施すものが多い。

廃棄場の石器　1 ～ 5 区では、5 区東側を除いて、広い廃棄場が検出された。特に千曲川に近い急傾斜面に形成された 4 区では 2 m を超える堆積層が形成され、縄文時代中期末葉を主体に多量の遺物が出土した。石核・剥片類を除いた石器は約 4,000 点に上り、8 区の約 3,300 点を上回る。石鏃・打製石斧・磨石類が多数を占める器種であるが、注目されるのは大形の円礫と板状礫に磨面を有する台石の多さである。半分以上遺存するものは 1 割足らずで、大部分は小破片となり、被熱したものが多い。石鏃・スクレイパー・石錐は大部分がチャート製で、拳大から鶏卵大の原石・石核が大量に出土している。千曲川から採取される豊富な石材を利用した、道具の製作と食料生産活動が推定される。

図 46　縄文中期中葉土器

川久保・宮沖遺跡

遺跡は中野市（旧豊田村）の千曲川・斑尾川合流地点左岸に位置し、合流地点付近が川久保遺跡、その斑尾川上流側のJR飯山線以北が宮沖遺跡である。両遺跡は川沿いに連続して広がる遺跡で、内容的にも類似する。発掘調査は平成16年～19年度に実施し、平成21年度から整理作業に着手した。本年度は遺物実測と遺構・遺物トレース、各種計測台帳の整理を中心に行った。

遺跡概要は前年度年報にも掲載したが、弥生時代中期後半頃から本格的な利用が始まり、古墳時代前期まで千曲川沿いは水田域などの生産域中心に利用されている。そして、古墳時代後半～奈良時代、平安時代は千曲川沿いまで集落域が拡大し、中世以後は集落や水田・畑地域として連続利用されている。

本遺跡は千曲川・斑尾川に隣接した立地から、弥生時代以後の川沿いの土地利用と、千曲川洪水のようすが知られる遺跡である。来年度、報告書を刊行する予定である。

千曲川・斑尾川の洪水痕跡　本遺跡は川沿いに立地する環境から、千曲川・斑尾川の浸食地形や洪水土の堆積といった洪水痕跡が認められた。浸食地形は千曲川と斑尾川の合流地点付近の川久保1・2区にあり、本流が流れ込んで削ったと思われる巾10～20m前後の谷状の窪地である。断面U字状で川側から入って段丘側先端が立ち上がる。

調査では弥生時代中期後半～後期初頭、古墳時代後期～平安時代9世紀間の所産が確認され、いずれも場所が重なる。後述する洪水土を堆積させる洪水とは異なるタイプの洪水と思われる。流れの速い水流が流れ込んでいると思われるが、詳細な生成過程は明らかにしえなかった。なお、この古墳時代後期～平安時代の洪水は千曲川上流域で見つかっている仁和4年（888）に比定されている9世紀末頃の洪水とは異なる可能性がある。

堆積土層は、千曲川沿いの川久保遺跡で数多く認められた。千曲川系の洪水土は細砂～シルトを主体とし、斑尾川の洪水土は数少ないながらパミスや礫を混じる土石流として捉えられるものが多い。分布も斑尾川沿いや斑尾川旧河道跡窪地内に分布する。

千曲川の洪水土は川久保遺跡で厚く認められ、特に中世～近世にかけては水田跡や畑跡を埋める薄い洪水土層が何枚も確認できた。一方、中世より古い洪水土層は枚数が限られ、詳細な洪水の様相は不明である。

本遺跡で時期がある程度特定された洪水土層は弥生時代中期後半～後期初頭、古墳時代前期、（古墳時代後期）～平安時代前期がある。中世以後では鎌倉時代、江戸時代後半期に多くの洪水土層が捉えられた。一方、弥生時代中期、古墳時代後期～奈良時代、平安時代末、室町時代～江戸時代前期では洪水土層の堆積が少なく、あまり良好な水田遺構は遺存していない。

一方、斑尾川の洪水土は、河岸段丘上にある川久保遺跡において、礫を巻き込む土石流として認められた。調査で捉えられた土石流は、現段丘形成以前と思われる縄文時代、2～4区の河道跡状の窪地地形内の弥生時代中期以前、古墳時代前期の3枚がある。隆起する地形にあって時代を追って分布範囲は狭くなる。

なお、弥生時代中期後半、古墳時代後期～奈良時代、平安時代前期～後期、平安時代末～鎌倉時代前期、近世前期では川久保1・2・4区といった千曲川に面した沿岸域でも居住遺構や活動痕跡がみつかっており、上記の洪水土の堆積が少なかった時期にあたることが知られる。

環境変化を語る遺跡　以上のように本遺跡は川沿いに立地することで、時代毎のさまざまな洪水痕跡が残されていた。それらの痕跡から時代毎の洪水発生の多寡があることが窺える。こうした洪水の影響の受け方は、本遺跡のある場所の土地の隆起や段丘形成も視野に入れなければならないが、近年注目される気候環境と関わると思われ、環境と人間の活動を考える上でも貴重な資料を提供できると思われる。

柳沢遺跡

柳沢遺跡は中野市柳沢に所在する。平成18～20年度に発掘調査、21～23年度に整理作業を実施した。今年度は写真撮影・図版組・原稿執筆・報告書の編集作業を行い、報告書を刊行した。以下に要点を記すが、詳細は本報告を参照されたい。

弥生時代中期の遺構は南部から順に水田跡（生産域）、青銅器埋納坑（祭祀域）、礫床木棺墓群（墓域）、竪穴住居跡群（居住域）に分かれ点在する。

水田跡　1～3区に位置する。中期の水田跡と水田に水を掛け流すための水路と考えられる3・25・45号溝跡を検出した。3・45号溝跡からは栗林2式古段階（石川2002）、25号溝からは吉田式が出土する点から該当地区の水田は栗林～吉田式期に水路をつくり変えながら継続して存在した可能性が高い。

青銅器埋納坑　4A区に位置する。埋納坑に直接伴う上屋構造や祭壇等の施設は確認されなかった。3区水田跡から7区谷までの約90ｍの範囲は青銅器埋納坑と墓域を除いて遺構の空白地帯となる。

墓域　6A区と7B区の2か所に位置する。墓制は両者とも礫床木棺墓である。両墓域の間には7区の谷が存在する。両墓域は、墓域の規模や構造が異なり、7区の谷を境に両者は異なる集団の墓域として認識されたと考えられる。

6A区墓域では周溝に囲まれて18基の墓が確認された。特に1号墓は規模が長軸250cm以上を有し、管玉の量も101点と多く、中部高地の当該期の墓としては最大級、管玉の量も最多となる。墓域内における墓の配置をみると、まず中央に1号墓を南北軸に合わせてつくり、その四辺にこれに合わせて墓を構築し、次第に1号墓を囲む様相になったと考えられる。

本墓域の造墓開始について、周溝から出土する土器に栗林2式古段階が多く、遺跡内で栗林1式期の遺構が確認されない点から栗林2式古段階期と考えた。

7B区の墓域では2基の墓を確認した。周溝を伴わず、副葬品も検出されていない。

竪穴住居跡群　9B～10A区と13区で確認された。前者では46・49号住居跡・土坑・溝跡群が検出された。後者は50・52号住居跡がある。両居住域は80ｍ離れており、谷地形により明確に分離される。7区の谷から11区の谷までは平坦部が続いており、7区墓域と9B～10A区の居住域で墓域と居住域の一つの単位を構成したと考えたい。

青銅器の埋納時期について　青銅器は埋納坑内外で銅鐸5点、銅戈8点が出土した。銅鐸については1･2号が外縁付鈕1式、3･4号が外縁付鈕2式、5号が外縁付鈕2式～扁平鈕式古段階と考えられる。銅戈については1号が九州型の中細形C類、2～8号が近畿型Ⅰ式と考えられる。

13点の青銅器は型式的にみると全て畿内Ⅲ～Ⅳ様式にかけて製作したと考えられる。青銅器の埋納時期については、遺構上面のⅥ層出土土器の時期も考慮すれば、埋納時期も栗林式および吉田式に併行する畿内Ⅳ様式およびⅤ様式の一部に収まる可能性が高い。

6A区墓域を形成し青銅器を埋納した集団　該当集団については柳沢遺跡の近接地域に想定することが難しい状況にある。現状では仮説として2案を提示する。A案、長野盆地北部（現中野市域）に点在する集団の代表を被葬するための墓域を形成し、各集団が所有した青銅器を埋納した。中核となる集落は長丘・高丘丘陵に位置する栗林遺跡となる。B案、長野盆地全体に点在する集団の代表を被葬するための墓域を形成し、各集団が所有した青銅器を埋納した。中核となる集落は千曲川河東地域の松原遺跡となる。

両案とも拠点集落にともなう集落がどの程度存在したのかを具体的に絞り込むことができない。

柳沢遺跡に墓域と青銅器の埋納場所を選んだのは両案とも共通で、長野盆地における地理的境界として位置づけられ、遺跡背後にそびえる高社山が景観的に優れている点をあげたい。

参考文献：石川日出志2002「栗林式土器の形成過程」『長野県考古学会誌』99・100

(2) 南曽峯遺跡・沢田鍋土遺跡ほか
（北陸新幹線関連）

南曽峯遺跡

本遺跡は長野市豊野に所在する。平成17～19年度に発掘調査を行った。

3か年にわたる発掘調査の結果、旧石器時代のブロック3か所、礫群2か所、平安時代の竪穴住居跡2棟、掘立柱建物跡とみられるピット群、中世の土坑、縄文時代～平安時代の遺物を包含する自然流路跡などが検出された。自然流路跡では弥生時代中期と平安時代の遺物が多量に出土した。

旧石器時代の石器群は出土層位により概ね2時期に区分され、上層石器群1,803点、下層石器群604点となる。この他、後世の遺構から出土した原位置をとどめていない剥片を含めると2,400点を超える石器群となる（図47）。ナイフ形石器の石材は黒曜石が主体を占め、蛍光X線分析による産地推定の結果、上層は和田鷹山群、下層は諏訪星ヶ台群が主体となることが明らかとなった。また、下層のナイフ形石器は横長剥片を素材とし基部に調整加工がある特徴的な形態である。43個体の接合資料が確認できたが、ナイフ形石器、掻器などの定形的器種の接合例がなく、これらの石器が遺跡（ブロック）外から持ち込まれた物であることが確認できた。

この他、弥生時代中期後半栗林Ⅰ式からⅡ式古段階のまとまった資料が出土した。また、自然流路内の埴輪片や円礫の出土状況から、破壊された古墳の存在の可能性が指摘できる。

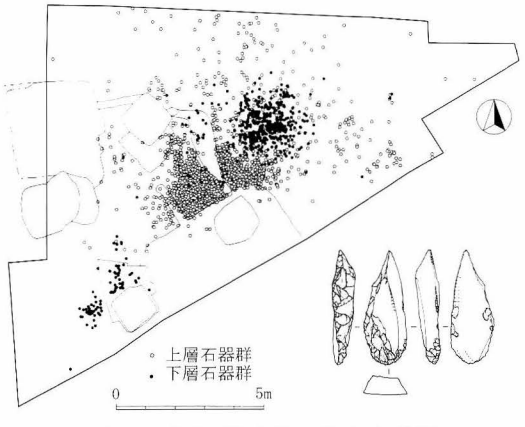


図47　旧石器時代石器出土状況

沢田鍋土遺跡・立ヶ花表遺跡・立ヶ花城跡

上記3遺跡は中野市立ヶ花・立ヶ花表に所在する。沢田鍋土遺跡（平成17・20・21年調査）では奈良時代の竪穴住居跡（須恵器工房跡）6棟、縄文時代・中世などの粘土採掘跡が検出された。立ヶ花表遺跡（平成19・20年度調査）では奈良時代の須恵器窯跡3基が検出された。この他両遺跡からは原位置は保っていないが、ナイフ形石器などの旧石器時代の石器が出土した。立ヶ花城跡（平成18年度調査）では、調査対象地内では城郭に関わる遺構、遺物は確認されていない。

本年度は、土器の分類、接合、各種遺物の実測、遺物・遺構図版の作成をおこなった。また、縄文土器および須恵器の胎土分析、遺構出土の炭化物の年代測定を実施した。

沢田鍋土遺跡では、縄文時代後期の粘土採掘跡から堀之内1式、南三十稲場式土器が主体的に出土した。須恵器工房跡では土師器の脚部（1･2）、金属器模倣の椀（3･4）、浅鉢形甕（鍋）（5）、円筒形土製品（6）などが出土した（図48）。これらは、当該期の周辺遺跡ではあまり確認されていない器種である。県内外の類例をあたることにより、沢田鍋土遺跡の須恵器生産の在り方を考えるうえで、重要な資料となると考えている。また、竪穴住居跡より窯体片が複数確認されており、須恵器窯との関わりを示す資料として注意される。

立ヶ花表遺跡では須恵器大甕を焼いた窯跡が確認されている。大形甕の破片が多数出土しているが、焼成時に生じた歪が著しいこともあり、残念ながら器形を復元できない。

平成25年3月に上記3遺跡の報告書を刊行する予定である。

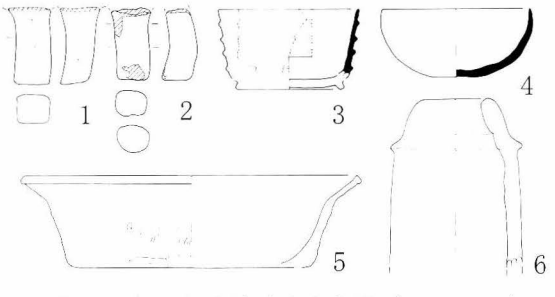


図48　沢田鍋土遺跡出土土器（S＝1：8）

(3) 西近津遺跡群
（中部横断自動車道関連）

今年度の整理　整理作業は21年度より継続している。遺物については縄文時代、弥生時代の土器接合が終了し、実測作業を進めた。古墳時代以降の土器接合を継続して実施している。下半期には石器の分類も行った。遺構については縄文時代、弥生時代の図面修正、デジタルトレースをほぼ終了し、古代遺構について同作業を進めている。

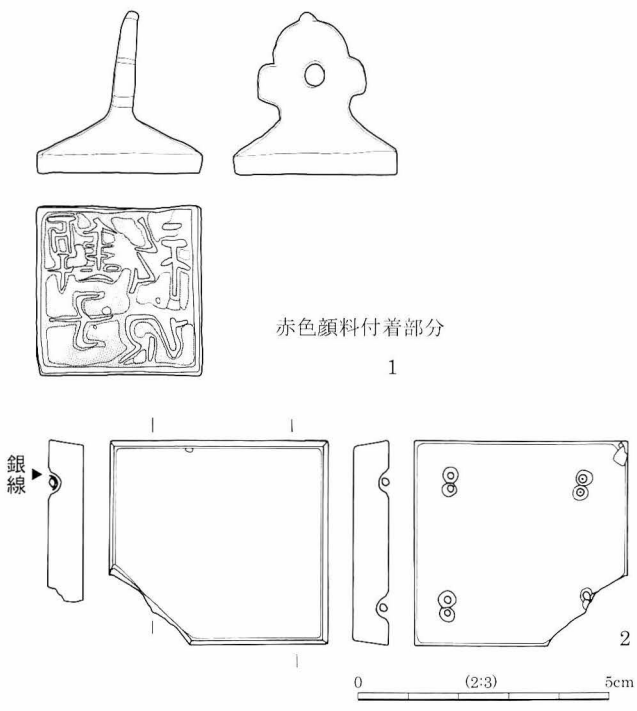
古代の赤色顔料　遺物の科学分析業務は専門業者に委託している。ここでは赤色顔料及び金属に関する科学分析成果を中間報告する。

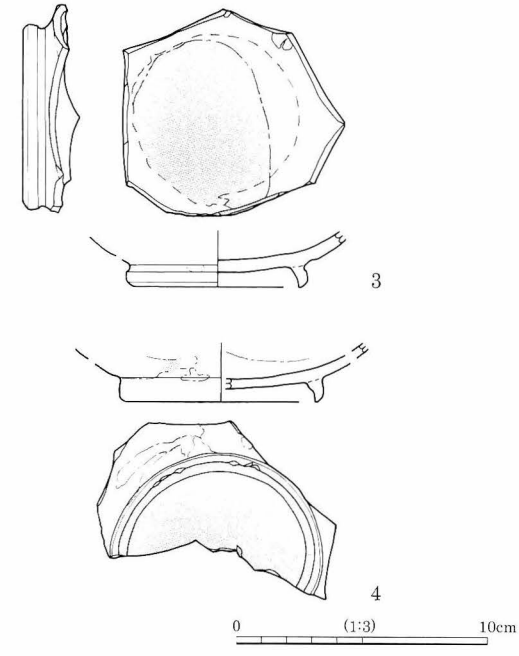
年報24（2007）で紹介した、平安時代の銅製私印の印面には押印した当時の赤色顔料が残存していた。赤色部分に対する蛍光X線分析結果では鉄（Fe）の存在量が多く、赤外分光分析結果では酸化第二鉄（Fe_2O_3）所謂「べんがら」起因のピークが確認された。また同時期の灰釉陶器碗を再利用した赤墨硯2点に付着した赤色顔料に対する蛍光X線分析でも、鉄（Fe）の存在量が多い結果が出た。

このほか、弥生時代後期や7世紀代の住居跡出土の、赤く発色した土塊についても蛍光X線分析結果では鉄（Fe）の存在量が多く、「べんがら」であると推察される。こうした結果から「べんがら」が弥生時代から古墳時代にかけて集落内に原料として持ち込まれていたこと、平安時代には文書業務において使用されていた可能性が高まった。

巡方の線状金属　平安時代の石製腰帯飾具である巡方の裏面潜り穴1カ所内に、径0.2mm程度の極細い線状金属が残存していた。断面円形で両端は切断された状態である。この金属についても蛍光X線分析を実施した。その結果、金属の主成分はAg（銀）であり、Fe（鉄）、Au（金）の存在も確認された。このことから線状金属は銀線であり、巡方は極細い銀線を用いて革（腰帯）へ装着していたことが明らかとなった。

科学的な分析はこれ以外に花粉分析、種実や樹種の同定、放射性炭素年代測定、須恵器胎土分析、鍛冶関連資料分析などを実施または実施予定である。また指導者を招聘して出土骨の同定や計測も実施している。今後は考古学的成果を中心として、科学的に得られた様々な情報を総合していく作業を経て、縄文時代から中世鎌倉時代まで断続的に続いた大集落跡の調査成果を報告するよう努めていくこととしたい。





1 銅製私印(SB4001)
2 石製腰帯飾具(SB0121)
3 赤墨硯(SB0073)
4 赤墨硯(1区撹乱)

図49　科学分析を行なった資料

(4) 濁り遺跡・久保田遺跡・西一里塚遺跡群
（中部横断自動車道関連）

標記の3遺跡について、報告書作成のための整理作業を平成21年度から進めており、3月に報告書を刊行した。今年度の主な作業内容は、全体図・遺構トレース図の作成、遺物の実測・トレース・台帳作成・写真撮影、鉄製品の保存処理、図版組・原稿執筆、報告書の編集作業などである。

濁り遺跡・久保田遺跡　両遺跡は別の遺跡名称となっているが、一連の遺跡としてとらえられる。このうち遺構が検出されたのは濁り遺跡の範囲内であり、掘立柱建物跡2棟と溝跡1条、土坑23基である。いずれも9世紀後半に位置づけられる。

検出された遺構は少なかったが、墨書・刻書土器が溝跡を中心に計57点出土している。しかも「入」と記されたものが45点と大半を占めている。「入」または「人」と書かれたものである可能性が高いが、あるいは「∧」という記号墨書の可能性も否定できない。いずれにせよ、本遺跡を特徴づける墨書・刻書である。

西一里塚遺跡群　本遺跡群は、低地、微高地、流れ山残丘という多様な地形の上に営まれていた。低地では平安時代～近世以降の水田跡計4面を検出した。弥生時代の調査面では水田跡は検出されず、溝跡や木材溜まりが確認された。微高地上および流れ山上では弥生時代中後期の竪穴住居跡や後期の周溝墓、木棺墓、土器棺墓が構築されていた。平安時代以降の溝跡等もみられるが、弥生時代中・後期の集落域および墓域が展開する遺跡であることが分かった。出土遺物には土器や石器のほか、木製品が多量に検出されたことが特筆される。弥生時代のものとしては鍬身、鍬柄、木鎌などの農具や破風板などの建築部材、樋などの施設部材などがある。古代以降のものには建築部材、形代、斎串などがみられた。佐久地方の弥生時代の木製品の出土事例は少ないため、貴重な資料である。

整理作業の過程で西一里塚遺跡群出土の鉄製品3点の保存処理を実施した。

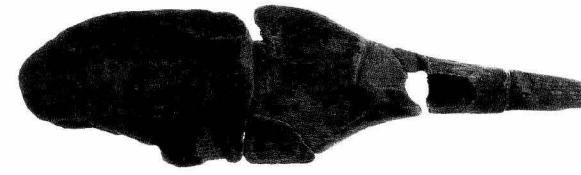


図50　木製鍬身

このうちの鉄剣は、円形周溝墓SM14の主体部から出土したものである。全長33.4cm、身幅3.9cm、身厚0.9cmを測る。目釘孔が茎尻に1ヶ認められる。木質の付着が認められ、針葉樹製の鞘に入れられていたことも明らかとなった。

図51　鉄剣

鉄釧は木棺墓SM07から出土し、9段の螺旋型とみられる。9段の残存幅は7.2cmを測る。外面には繊維痕が認められたが、これは絹であることが判明している。この木棺墓には被葬者の歯が検出されたため、茂原信生京都大学名誉教授に鑑定をお願いした。その結果、性別は不明だが、10代前半の若い遺体であることがわかった。鉄釧を装着した被葬者像を探るひとつの知見を得ることができた。

また、平成21年度に記者発表した土偶形容器については、その名称を再検討した結果、蔵骨器としての機能が形骸化していることなどから「人形土器」として報告することになった。その経緯については報告書を参照いただきたい。

これら3遺跡については、中部横断自動車道に伴い発掘調査された遺跡としては最初の報告書として刊行することとなった。

Ⅳ　普及公開活動の概要

(1) 展示会・講演会

① 長野県埋蔵文化財センター速報展
「長野県の遺跡発掘 2011」

主　催：長野県埋蔵文化財センター、長野県立歴史館、長野県伊那文化会館

＜長野県立歴史館会場＞

会　期：平成23年3月12日(土)～5月15日(日)

来館者：10,138名

内　容：中野市千田遺跡出土の縄文時代の土偶100点をはじめ、平成22年度の調査・整理遺跡のうち16遺跡430点を展示公開した。

○遺跡調査報告会　3月19日（土）

遺跡報告　地家遺跡他2遺跡と遺跡トーク

個別遺跡報告に加え、座談会形式の遺跡トークも実施した。聴講者　62名

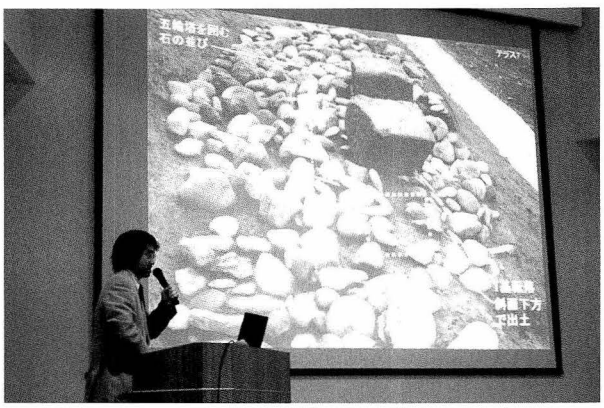
○講演会：4月24日（日）

演　題：「土偶とは何か」

講　師：小林達雄國學院大學名誉教授

聴講者　155名

○ギャラリートーク（展示解説）　3回



遺跡調査報告会「中世寺院の風景（佐久市地家遺跡）」

小林達雄先生講演「土偶とは何か」

伊那文化会館「新県宝　社宮司遺跡出土六角木幢」

＜長野県伊那文化会館会場＞

会　期：平成23年7月7日(木)～7月31日(日)

来館者：872名

内　容：歴史館と同様の巡回展示に加え、伊那市創造館所蔵品の縄文土器を展示した。

○遺跡調査報告会　7月10日（日）

遺跡報告　東條遺跡他2遺跡と遺跡トーク

聴講者　45名

○ギャラリートーク（展示解説）　3回

② 「写真でみる長野県の遺跡発掘 2012」

会　場：しなの鉄道屋代駅　千曲市民ギャラリー

会　期：平成24年2月27日(月)～3月4日(日)

内　容：速報展のプレイベントと位置づけ、屋代駅構内で写真パネルを中心に展示した。

共　催：長野県立歴史館、千曲市教育委員会

③ 長野県埋蔵文化財センター速報展
「長野県の遺跡発掘 2012」

主　催：長野県埋蔵文化財センター、長野県立歴史館、長野県伊那文化会館

会　場：長野県立歴史館

会　期：平成24年3月17日(土)～5月13日(日)

内　容：主に今年度調査・整理した20遺跡と町村の調査資料（箕輪町1遺跡、山形村1遺跡）の出土品約450点を展示公開した。

○遺跡調査報告会　3月24日（土）

遺跡報告　小山の神B遺跡他4遺跡と座談会形式の遺跡トーク　　聴講者107名

（伊那文化会館では7月28日～8月19日開催予定）

(2) 現地説明会

県教育委員会との共催事業として、6遺跡で実施した。参加者は延べ814名であった。

① 浅川扇状地遺跡群（長野市）

第1回　9月4日（日）　235名　晴

第2回　10月15日（土）　93名　くもり

第1回は古墳時代から平安時代の竪穴住居跡などを中心に、第2回は中世の堀跡を主に見学いただいた。地元の方の参加が多くみられ、関心の高さが伺えた。

説明を熱心に聞き入る参加者（浅川扇状地遺跡群）

② 鬼釜遺跡・鬼釜古墳（飯田市）

第1回　8月28日（日）　116名　晴

第2回　11月23日（水）　84名　晴

第1回は縄文・平安時代の竪穴住居跡等を紹介した。第2回は鬼釜古墳を主に公開した。古墳の構造等について、熱心に質問する姿も見られた。

③ 高尾A遺跡（佐久市）

6月26日（土）　125名　晴

旧石器時代の石器集中（ブロック）を主に見学いただいた。佐久地域における、3万年前の石器を目の当たりする機会として、多くの方の参加をいただいた。

④ 和田遺跡 和田1号墳、滝遺跡（佐久市）

7月30日（土）　51名　晴

隣接する両遺跡を紹介した。和田遺跡 和田1号墳では、弥生時代の竪穴住居跡、和田1号墳を近世以降の塚として紹介した。滝遺跡は出土資料と写真パネルを展示した。

⑤ 小山の神B遺跡（佐久市）

11月3日（木）　110名　晴

縄文時代前期の竪穴住居跡、貯蔵穴を主として見学していただいた。佐久地域において、この時期の調査事例は少なく、関東方面からの見学者もみられた。なお、前の久保遺跡、大沢屋敷遺跡の遺物および写真パネル展示を併せて行った。

(3) 夏休み考古学チャレンジ教室

8月3日（水）、4日（木）の2日間、長野市篠ノ井のセンター施設を公開した。参加者は186名。今年度は公開時間を午前までとし、遺跡から出土した土器や石器、記録類の整理作業を見学いただいた。また、勾玉づくりや遺跡の測量法などの体験ブースも設置して、参加者に楽しみながら、当センターの業務を知っていただく機会を設けた。

施設については、所内見学ツアーを新たに実施し、好評をいただいた。

出土遺物の展示風景（高尾A遺跡）

所内見学ツアー（チャレンジ教室）

V　研修等の概要

(1) 講師招聘などによる指導

月　日	所　属	職・氏名	指導内容
4 月25・26日	國學院大學	名誉教授　小林達雄	千田遺跡の縄文時代集落跡及び土器・土偶等について
5 月27・28日	京都大学	名誉教授　茂原信生	浅川扇状地遺跡群の出土骨について
8 月24日	野尻湖ナウマンゾウ博物館	学芸員　中村由克	柳沢遺跡の石器・玉類の石材鑑定
9 月14～16日 3 月 6 ～ 8 日	京都大学	名誉教授　茂原信生	西近津遺跡群ほかの出土骨について
	総合研究大学院大学	准教授　本郷一美	
	獨協医科大学	技術職員　櫻井秀雄 (3月6日～8日)	
10月21日	長野県遺跡調査指導委員会	委員　笹澤　浩	柳沢遺跡の北陸系土器について
10月26日	明治大学研究・知財戦略機構	特任教授　小野　昭	長野県遺跡調査指導委員会 飯田市鬼釜遺跡等の調査指導
	長野県考古学会	会長　会田　進	
	大阪府立狭山池博物館	館長　工楽善通	
	長野市文化財保護審議会	委員　笹澤　浩	
	上伊那考古学会	会長　丸山敞一郎	
11月22日	伊那谷自然友の会	理事　松島信幸	鬼釜遺跡の地形・地質指導
11月29日	信州大学理学部	教授　原山　智	西一里塚遺跡群の石器石材鑑定について
1 月13日	長野県遺跡調査指導委員会	委員　笹澤　浩	柳沢遺跡の弥生時代の墓制と青銅器の埋納について
1 月30日	長野県遺跡調査指導委員会	委員　笹澤　浩	銅戈と銅鐸が埋納された神戸市桜ケ丘遺跡の位置づけについて
2 月 7 日	長野県遺跡調査指導委員会	委員　笹澤　浩	鬼釜古墳出土遺物の調査指導
2 月15日	長野県文化財保護審議会	委員　桐原　健	南大原遺跡の調査指導
2 月21日	長野県小海高等学校	教諭　寺尾真純	北裏遺跡群ほかの石材について
2 月28・29日	國學院大學文学部	教授　吉田恵二	周防畑遺跡群ほかの整理指導
3 月12・13日	長野県遺跡調査指導委員会	委員　笹澤　浩	柳沢遺跡調査指導委員会
	大阪府立狭山池博物館	館長　工楽善通	
	京都国立博物館	保存修理指導室長 村上　隆	
	奈良文化財研究所	企画調整部長 難波洋三	
	明治大学文学部	教授　石川日出志	
	信州大学理学部	教授　保柳康一	
	愛媛大学ミュージアム	准教授　吉田　広	

(2) 全埋協等への参加

期　日	会　議　名	開催地	参　加　者
4 月11日	指導主事・専門主事会議	長野市	太田　潤
5 月17日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会	千代田区	阿部精一　大竹憲昭 西澤宏明
6 月16・17日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会総会	高知市	窪田久雄　大竹憲昭 窪田秀樹
7 月12日	市町村文化財担当者会議	塩尻市	上田典男　廣田和穂
8 月 4 日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会コンピュータ等研究委員会	和歌山市	大竹憲昭
9 月 7 ～ 9 日	埋蔵文化財担当職員講習会	新潟市	上田典男　鶴田典昭 西　香子
10月19・20日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会中部・北陸ブロック秋季連絡会	名古屋市	窪田久雄　大竹憲昭 岡村秀雄
10月27・28日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	白河市	岡村秀雄　櫻井秀雄
11月 9 日	市町村埋蔵文化財担当者技術研修会	塩尻市	大竹憲昭　上田典男 岡村秀雄　綿田弘実 谷　和隆
11月10・11日	関東甲信越静地区埋蔵文化財行政担当者会議	前橋市	市川隆之
11月18日	考古資料保存処理講習会	千曲市	鶴田典昭　寺内貴美子
11月29日	関東甲信越静地区埋蔵文化財行政担当者職員共同研修協議会	さいたま市	綿田弘実
12月 1・2 日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会役員会	千代田区	窪田久雄　阿部精一 大竹憲昭
1 月21日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会諸経費検討委員会	豊島区	大竹憲昭　窪田秀樹
2 月23日	全国埋蔵文化財法人連絡協議会諸経費検討委員会	豊島区	窪田秀樹

(3) 研修および資料調査

期　日	参加者	場　所	内　　容
9 月26～30日	町田勝則	奈良県	奈良文化財研究所　専門研修「自然科学的年代測定法過程」
11月14～18日	宮村誠二	奈良県	奈良文化財研究所　専門研修「遺跡情報記録と調査過程」
11月28日～12月 8 日	三木雅博	奈良県	奈良文化財研究所　専門研修「文化財写真過程」
12月14～16日	櫻井秀雄	千葉県・群馬県	人形土器に関する資料調査
2 月 6 ～10日	前田一也	奈良県	奈良文化財研究所　専門研修「保存科学Ⅲ(応急処理)過程」
2 月13・14日	中野亮一 谷　和隆 曳地隆元	神奈川県・青森県	遺構実測支援システムについての関連調査
2 月14～22日	黒岩　隆	奈良県	奈良文化財研究所　専門研修「地質環境調査過程」
3 月 1・2 日	谷　和隆 太田　潤	群馬県	旧石器時代石器群に関する資料調査
3 月 2 ～ 4 日	柳澤　亮	静岡県・神奈川県	弥生時代後期土器、墨書土器に関する資料調査
3 月 7 ～ 9 日	町田勝則 前田一也	新潟県	南大原遺跡に係る資料調査

(4) 学会・研修会などでの発表

月　日	派遣先	担当者	内　　容
4 月20日	上山田公民館力石支所	上田典男	力石を語る会講演「力石条里遺跡群の発掘調査成果について」
5 月15日	長野県立歴史館	町田勝則 若林　卓 谷　和隆	長野県考古学会総会　埋蔵文化財講演
7 月 1 日	佐久穂町生涯学習館 「花の郷・茂来館」	藤原直人	いきいき大学講座講演「佐久穂町の遺跡と出土品－旧石器時代と平安時代の2つの遺跡から－」
7 月 9 日	大町市文化財センター	廣田和穂	「海の口上諏訪社と中野市柳沢遺跡の銅戈について」
7 月16日	あがたの森文化会館	綿田弘実	あがたの森考古学ゼミナール「縄文時代の墓制について」
7 月23日	塩尻市立平出博物館 洗馬歴史の里資料館	市川隆之	釜井庵寺子屋塾講演「焼物からみた中世の信濃」
9 月 4 日	上田市立信濃国分寺資料館	若林　卓	市民講座「中世寺院跡・佐久市地家遺跡の調査成果」
9 月10日	長野県立歴史館	町田勝則	森将軍塚古墳館企画展講演会 「長野県宝木造六角宝幢の造立とその後」
10月 8 日	飯田市上郷考古博物館	町田勝則	下伊那教育会「考古学講演会」
10月21日	小諸市公民館	櫻井秀雄	「小諸市の古代遺産－発掘調査の成果から－」
11月19日	飯田市上郷考古博物館	若林　卓	「三遠南信自動車道の発掘調査から」
11月24日	中野市北部公民館	廣田和穂	「柳沢遺跡からみた長野県の弥生時代」
11月26日	長野県立歴史館	町田勝則 廣田和穂	長野県考古学会50周年記念事業 「信濃の弥生文化を語る」
12月18日	長野県立歴史館	大竹憲昭 谷　和隆	冬季展関連行事信濃町住民御招待デー　「世界に誇る日向林B遺跡を語る会」
1 月29日	長野市朝陽公民館分室	廣田和穂	「柳沢遺跡からみた北信地方の弥生時代」
2 月12日	長野市桐原公民館ホール	西　香子 中野亮一	文化講演会「桐原神社東遺跡発掘調査結果について」
2 月26日	飯田市上郷考古博物館	鶴田典昭	「竹佐中原遺跡　日本列島人類文化の起源について」

(5) 市町村・関係機関などへの協力

月　日	依頼元	担当者	協力・指導内容
7 月 1 日	長野市埋蔵文化財センター	大竹憲昭 西　香子	職場研修 長野市浅川扇状地遺跡群の現地視察
8 月 2 日	長野県立歴史館（下伊那教育会）	町田勝則	長野市榎田・松原遺跡出土磨製石斧の石材原産地の踏査、石材の特徴について、ほか
8 月 4 日	更埴地歴民俗研究会	上田典男	中野市柳沢遺跡の遺物見学
8 月11日	長野県史跡「上ノ平城跡」	河西克造	長野県史跡「上ノ平城跡」の発掘調査で出土した遺構等について
8 月19日	横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター他	綿田弘実	柳沢遺跡の縄文時代遺物見学
8 月26日	伊那市高遠町総合支所	河西克造	史跡高遠城跡整備委員会
9 月13日	國學院大學文学部	廣田和穂	資料調査　柳沢遺跡出土の銅戈、銅鐸

月　日	依頼元	担当者	協力・指導内容
9 月15・16日	愛媛大学	町田勝則	榎田遺跡出土石斧の資料調査について
9 月28日	上久堅公民館	河西克造	鬼釜遺跡の見学
10月14日	上久堅小学校同級会	河西克造	鬼釜遺跡の見学
10月15日	東京大学文学部	大竹憲昭 櫻井秀雄	佐久市西一里塚遺跡群出土人形土器の見学
11月 3 日	筑北村考古資料館	柳澤　亮	筑北村考古資料館体験体験イベントへの協力
11月16日	山形村教育委員会	市川隆之 柳澤　亮	ヨシバタ遺跡出土の鍛冶関係資料の整理について
12月 2 日	東京大学文学部	櫻井秀雄	佐久市西一里塚遺跡群出土人形土器の見学
12月27日	富山大学	上 田 真 廣田和穂	佐久市周防畑遺跡群、中野市柳沢遺跡出土の翡翠製勾玉の調査について
2 月10日	あいとぴあ臼田	河西克造	佐久市国史跡龍岡城跡保存管理計画策定委員会
2 月27日	和田コミュニテーセンター	大竹憲昭	黒曜石展示・体験館運営協議会
3 月17・18日	十日町市博物館	綿田弘実	野首遺跡出土の縄文時代中期の土器について

(6) 学校関係への協力・指導

期　日	学校名	内　容	担当者
4 月26日	佐久市立泉小学校	体験学習（発掘作業）	谷　和隆　太田　潤
5 月30日	中野市豊井小学校	体験学習（発掘作業）	町田勝則　前田一也
5 月24日	長野市立山王小学校	講師派遣	柳澤　亮
7 月26・27日	長野市立犀陵中学校	職場体験	大竹憲昭
8 月22日～ 9 月 2 日	長野工業高等専門学校	インターンシップ	大竹憲昭
10月12・13日	長野市立松代中学校	職場体験	大竹憲昭
	長野市立篠ノ井東中学校	職場体験	大竹憲昭
	長野市立広徳中学校	職場体験	大竹憲昭
10月 6・13日	長野市立吉田小学校	体験学習（発掘作業）	西　香子　中野亮一
10月14日	篠ノ井西中学校2学年	職場体験	大竹憲昭

(7) 資料の貸し出し

貸与先	貸与資料	貸与期間	備　考
御代田町浅間縄文ミュージアム	佐久市西一里塚遺跡群、周防畑遺跡群出土資料	4 月22日～ 9 月22日	ガラス小玉8点、ヒスイ勾玉1点、土製勾玉1点、銅釧3点
東京法令出版株式会社	長野市石川条里遺跡出土鍬の装着例写真	掲載許可	1点
㈱みすず綜合コンサルタント	佐久市西近津遺跡群３Ｄレーザースキャナ計測データ等	掲載許可	地形測量レーザー計測データ、レーザースキャナ実証実験データ

貸与先	貸与資料	貸与期間	備　考
㈱信州広告社ぷらざ佐久平	佐久市西一里塚遺跡群弥生時代墓壙写真、西近津遺跡群弥生時代大型竪穴住居跡写真	デジタルデータを提供	デジタル写真2枚
㈱山川出版社	佐久市地家遺跡五輪塔出土状況写真	デジタルデータを提供	デジタル写真1枚
千曲市森将軍塚古墳館	千曲市峯謡坂遺跡ほか出土品および写真	8月26日～10月16日 写真は 7月26日～8月12日	峯謡坂遺跡遺物25点、東條遺跡遺物21点、峯謡坂遺跡写真2点、東條遺跡写真2点
中野市上今井区	中野市南大原遺跡発掘写真パネル	8月12日～8月18日	パネル5枚
㈱信州広告社ぷらざ佐久平	西近津遺跡群「大井」刻書土器写真	デジタルデータを提供	デジタル写真1枚
長野県立歴史館	図録「赤い土器のクニ」からの弥生時代遺物写真	掲載許可	稲穂1、銅鐸1、磨製石包丁2、土器顔面飾り2点
信州大学広報室	中野市千田遺跡ほかの調査写真	デジタルデータを提供	中野市千田遺跡調査風景、佐久市北裏遺跡群木棺墓調査風景写真、遺物洗浄作業写真、接合･復元作業写真、中野市千田遺跡出土縄文土器写真、埋蔵文化財センター発行報告書写真
教育を語る会	飯田市竹佐中原遺跡写真	デジタルデータを提供	全景写真、石器集合写真
長野県立歴史館	中野市柳沢遺跡出土青銅器・木棺墓出土玉類	12月10日～2月26日	
長野県考古学会	中野市柳沢遺跡出土資料	デジタルデータを提供	シカ絵土器拓影1点 銅戈集合写真1点
中野市硲区	中野市琵琶島遺跡発掘調査パネル	12月22日～12月26日	パネル4点
静岡市教育員会 (静岡市立呂博物館)	佐久市西近津遺跡群弥生時代土器等の借用と「赤い土器のクニ」掲載資料ほか	1月24日～3月31日 写真はデジタルデータを提供、12月26日～2月17日	弥生時代（赤彩）壺・甕など6点 デジタル写真19枚
2011篠ノ井イヤー実行委員会	「考古学チャレンジ教室」風景写真の掲載	デジタルデータを提供	デジタル写真7枚
長野県立歴史館	中野市柳沢遺跡の関連写真	デジタルデータを提供	デジタル写真4枚
長野県立歴史館	「赤い土器のクニ」掲載写真長野市篠ノ井遺跡群出土資料等	県立歴史館所蔵のデュープフィルムを使用	写真6枚
長野県立歴史館	「赤い土器のクニ」掲載イラスト	図録からの転載	イラスト1点
長野県立歴史館	「赤い土器のクニ」掲載写真長野市篠ノ井遺跡群出土資料等	県立歴史館所蔵のデュープフィルムを使用	写真4枚
新潟市文化財センター	「赤い土器のクニ」掲載写真長野市篠ノ井遺跡群出土箱清水式土器	デジタルデータを提供	写真2枚
㈱ジャパン通信情報センター	佐久市高尾A遺跡現地説明会資料	デジタルデータを提供	A4判4頁分

貸与先	貸与資料	貸与期間	備　考
㈱しなのき書房	中野市千田遺跡出土土偶集合写真等	デジタルデータを提供	写真3枚
東京大学大学院新領域創成科学研究科	佐久市西近津遺跡群出土馬歯骨	試料採取	10点
長野県教育員会事務局文化財・生涯学習課	佐久市地家遺跡五輪塔出土状況写真	デジタルデータを提供	写真1枚
大阪府立弥生文化博物館	中野市柳沢遺跡銅戈・銅鐸出土状況写真等	デジタルデータを提供	写真2枚
長野県立歴史館	佐久市西一里塚遺跡群出土の弥生時代後期人形土器写真	デジタルデータを提供	写真1枚
港区教育委員会事務局図書・文化財課	中野市柳沢遺跡出土「シカ絵土器」	デジタルデータを提供	写真1枚

Ⅵ　組織・事業の概要

(1) 組　織

財団法人長野県文化振興事業団

【役員】 11名

理事長　長野県副知事　副理事長　県芸術文化協会会長　常務理事

理事　県民文化会館長　伊那文化会館長　松本文化会館長　駒ヶ根高原美術館副館長
サイトウ・キネン・フェスティバル松本総合コーディネーター　信濃美術館長

監事　2名

- 事務局　5名
- **埋蔵文化財センター　38名**
  - 所　長
  - 副所長（兼管理部長）
    - 管理部　4（5）名
      管理部長　課長　係長　職員　臨職
    - 調査部　32名
      調査部長
      - 調査第1課　14名
        課長　主任調査研究員
        調査研究員　臨職
      - 調査第2課　17名
        課長　主任調査研究員
        調査研究員
- 県民文化会館　19名
- 伊那文化会館　15名
- 松本文化会館　17名
- 信濃美術館　26名
- 飯田創造館　6名

(2) 職　員（事務系臨時職員を除く）

H24. 3. 10現在

所　長		窪田久雄
副所長		阿部精一
管理部	管理部長(兼)	阿部精一
	管理課長	窪田秀樹
	管理係長	西澤宏明
	職　員	戸谷良子
調査部	調査部長	大竹憲昭
	調査課長	〔第1課〕上田典男　〔第2課〕岡村秀雄
	主任調査研究員	〔第1課〕綿田弘実　町田勝則　河西克造 〔第2課〕廣瀬昭弘　市川隆之
	調査研究員	〔第1課〕鶴田典昭　中野亮一　西　香子　廣田和穂 三木雅博　古賀弘一　前田一也 〔第2課〕上田　真　藤原直人　伊藤友久　若林　卓　黒岩　隆 櫻井秀雄　寺内貴美子　市川桂子　谷　和隆　柳澤　亮 太田　潤　内堀　団　曳地隆元　宮村誠二
	調査員	〔第1課〕鈴木時夫　大澤泰智

(3) 事　業　　経費はH24.3.10現在

事業名			委託事業者	事業個所	事業内容	経費（千円）
受託事業	発掘・整理・報告	中部横断自動車道	国土交通省 関東地方整備局	佐久市 北裏遺跡群ほか	発掘作業 整理作業 報告	367,330
		一般国道18号 （更埴坂城バイパス）	国土交通省 関東地方整備局	千曲市 東條遺跡ほか	整理作業 報告	4,936
		一般国道18号 （野尻バイパス）	国土交通省 関東地方整備局	信濃町 大道下遺跡ほか	発掘作業	8,025
		一般国道474号 飯喬道路	国土交通省 中部地方整備局	飯田市 鬼釜遺跡ほか	発掘作業 報告	90,190
		替佐・柳沢築堤	国土交通省 千曲川河川事務所	中野市 柳沢遺跡ほか	整理作業 報告	42,389
		北陸新幹線	北陸新幹線建設局	長野市 沢田鍋土遺跡ほか	整理作業 報告	26,176
		県道高田若槻線	長野建設事務所	長野市 浅川扇状地遺跡群	発掘作業	70,564
		県道豊田中野線	北信建設事務所	中野市 南大原遺跡	発掘作業	33,477
		県道三水中野線	北信建設事務所	中野市 琵琶島遺跡	発掘作業	18,375
	研修	専門的知識技術の習得	県教育委員会	奈良文化財研究所	研修	218
自主事業		速報展など	3 月：速報展　長野県の遺跡発掘2011 長野県立歴史館 8 月：速報展　長野県の遺跡発掘2011 県伊那文化会館 8 月：夏休み考古学チャレンジ教室 2 月：屋代市民ギャラリー展 3 月：速報展　長野県の遺跡発掘2012 長野県立歴史館 随時：遺跡現地説明会			

長野県埋蔵文化財センター年報28　2011

発 行 日　平成24年 3 月31日
編集発行　(財)長野県文化振興事業団
長野県埋蔵文化財センター
〒388-8007　長野市篠ノ井布施高田963-4
電話:026-293-5926　FAX:026-293-8157
E-mail:info@naganomaibun.or.jp
印　　刷　三和印刷株式会社